

令和7年度
瀬谷区小学生の学習意欲等の習得
に係る調査研究 報告書 No.2

横浜市立大学データサイエンス学部 データサイエンス学科
教授 土屋隆裕
一般社団法人 横浜すぱいす
代表理事 北村克久

瀬谷区の子どもたちの「やる気」と「学び」のいま

～令和7年度 学習意欲等に関する調査報告書より～

(一社)横浜すばいすは、子どもたちが「自ら課題を立て、解決に向けて情報を集め、話し合う力」を育むことを指標にして放課後学習支援に努めています。保護者の皆様に、今回の調査から見えてきた、お子様の成長を支えるためのヒントをお届けします。

1. 調査結果：指標を達成！

- 第6年生の34.8%が「自分たちで課題を立てて解決に取り組んでいる」と回答しました。これは目標値(30.0%)を上回る素晴らしい結果です。
- 一方で、**学年が上がるにつれて学習意欲が低下する傾向も見られます**。この変化にどう寄り添うかが今後の鍵となります。

2. 子どもの成長を支える「ナナメの関係」

- 子どもにとって、親や先生以外の大人や異学年の友だちといった「ナナメの関係」が、安心感ややる気を引き出す重要な役割を果たします。
- 調査では、子どもたちが「あんな風になりたい」と思える「モデル(憧れる人)」が身近に少ないという課題も浮き彫りになりました。地域のイベントや放課後学習支援教室などを通じ、多様な大人や年上の子とふれ合う機会を大切にしましょう。

3. これからの学びと生成AI(人工知能)の活用

- これからの時代、生成AIは学びの強力なパートナーになります。
- 生成AIは「新しい視点を提供してくれる存在」として活用できます。
- 大切なのは、大人が最初から否定するのではなく、「まずはやってみる」という姿勢を価値付け、一緒に試行錯誤することです。

4. 家庭でできる「学びの習慣化」のコツ

- 「自学(宿題)」のルーティン化：「じかくノート」などを活用し、毎日1ページ、決まった時間に学習する習慣を応援しましょう。
- 失敗を笑顔で受け入れる：子どもが失敗しても、大人が次の成功に向けて共に考える姿勢を示すことで、子どもの「やり抜く力」が育ちます。
- 「読み聞かせ」の継続：伝記などの読み聞かせを通して、憧れの対象(モデル)を見つけるきっかけ作りも有効です。是非、読書が好きな子に！

瀬谷区では、各小学校で「放課後学習支援教室」を開催しています！地域のボランティアや教職経験者などが「学習アドバイザー」として、お子様の「よさ」を伸ばすお手伝いをしています。ぜひご活用ください。

このチラシは「令和7年度 瀬谷区小学生の学習意欲等の習得に係る調査研究報告書 No.2」の内容を基に作成されました。

瀬谷区小学生の学習意欲向上プロジェクト：地域とAIで育む「自ら学ぶ力」

現状の成果と浮き彫りになった課題



令和7年度の目標値30.0%を上回り、子供たちの自律的な学習姿勢に成果が見られました。

2026年度に向けた解決アプローチ

「親めの関係」による
地域支援の強化



親や先生以外の大人(アドバイザー)が、子供の失敗を肯定し伴走する環境を作ります。

生成AIを「新しい視点の
提供者」として活用



AIが得意とする「情報収集」や「遊び相手」の役割で、子供の知的好奇心を補完します。

「自学ノート」による
学習習慣の確立



毎日1ページ、自ら目標と振り返りを書く習慣を家庭・地域・学校が連携して支えます。

高学年における学習意欲の低下傾向



第4学年以降、日常生活における学習意識が横浜市平均を下回る傾向が確認されました。

「憧れる存在（ロールモデル）」の不足



約48%の子供が憧れる人を「0人または1人」と回答し、身近な手本が少ない現状があります。

役割別の「周りの人の数」の平均比較



目次

1 回答数	1
2 指標	1
3 役割別の周りの人の数	2
4 放課後学習支援教室への参加の有無の間での比較	3
4.1 課題設定	3
4.2 情報収集	4
4.3 整理分析	5
4.4 まとめ発表	6
5 学力偏差値の比較(周りの人の数)	7
6 学力偏差値の比較(非認知能力)	11
6.1 課題設定	11
6.2 情報収集	12
6.3 整理分析	13
6.4 まとめ発表	14
7 「役割」と「取組」からの考察	15
7.1 役割別の周りの人の数の調査結果から	15
7.1.1 周りの人の役割	16
7.1.2 周りの人の役割の一部分を担う「生成 AI(&書籍)	17
8 指標実現に向けた 2026 年度の取り組み	26
8.1 逆転の発想で地域と家庭の教育の力をつける	26
8.2 大人の得意とすることが「子供のよさ」の発揮と「やる気」につながる	27
8.2.1 スマイル教室(瀬谷第二小)	27
8.2.2 わくわく教室(二つ橋小)	27
8.2.3 たけのこ教室(上瀬谷小)	27
8.2.4 かがやけダイヤモンド教室(大門小)	28
8.2.5 ぐんぐん教室(相沢小)	28
8.2.6 きらきら教室(瀬谷小)	29
8.2.7 さくらキッズ(瀬谷さくら小)	29
8.2.8 さわやか教室(三ツ境小)	30
8.2.9 いきいき教室(原小)	30
8.2.10 かがやき計算スキルアップ(南瀬谷小)	31

8.3 開発プログラムの導入による「自分のよさ」への気付き	32
8.4 伝記などの「読み聞かせ」を通して憧れる人をつくる	32
8.5「自学(宿題)」の学習習慣をつくる	33
8.6「生成AI親子教室を通じた保護者への啓発	37
9 OECD 調査結果と方向性が同じ	38
引用文献	39

1 回答数

令和7年度調査における各校の回答数は表1のとおりである。「あり」「なし」「不明」は、放課後学習支援教室への参加の有無を表す。

表1 回答者数

	第2学年				第3学年				第4学年				第5学年				第6学年				全体			
	あり	なし	不明	合計	あり	なし	不明	合計	あり	なし	不明	合計	あり	なし	不明	合計	あり	なし	不明	合計	あり	なし	不明	合計
瀬谷さくら小学校	13	17	12	42	17	22	7	46	5	31	9	45	12	39	13	64	4	43	7	54	51	152	48	251
相沢小学校	24	31	4	59	13	27	3	43	15	34	1	50	16	24	1	41	14	40	3	57	82	156	12	250
上瀬谷小学校	16	16	5	37	21	21	14	56	5	19	1	25	9	44	3	56	8	38	2	48	59	138	25	222
瀬谷小学校	23	62	21	106	16	72	9	97	11	93	5	109	14	85	11	110	14	93	3	110	78	405	49	532
瀬谷第二小学校	35	40	5	80	28	56	1	85	12	65	2	79	30	63	3	96	7	47	2	56	112	271	13	396
大門小学校	21	61	1	83	19	56	0	75	19	67	2	88	15	60	1	76	11	60	2	73	85	304	6	395
原小学校	24	80	37	141	18	79	30	127	22	113	12	147	18	127	8	153	22	113	5	140	104	512	92	708
二つ橋小学校	19	18	11	48	14	61	6	81	4	58	8	70	7	44	4	55	8	65	3	76	52	246	32	330
三ツ境小学校	1	72	13	86	8	66	8	82	22	71	6	99	26	73	11	110	16	73	1	90	73	355	39	467
南瀬谷小学校					32			32	27			27									59			59
合計	176	397	109	682	186	460	78	724	142	551	46	739	147	559	55	761	104	572	28	704	755	2,539	316	3,610

2 指標

令和6年度に設定した、瀬谷区における教育施策の目標指標は、横浜市学力・学習状況調査における項目「V08 自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集めたり話し合ったりしていると思いますか」に対して第6学年で「そう思う」と回答する割合である。その今後5年間における目標値は表2に示すとおりである。

表2 目標指標

	R7年	R8年	R9年	R10年	R11年
V08 自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集めたり話し合ったりしていると思いますか	30.0%	30.5%	31.0%	31.5%	32.0%

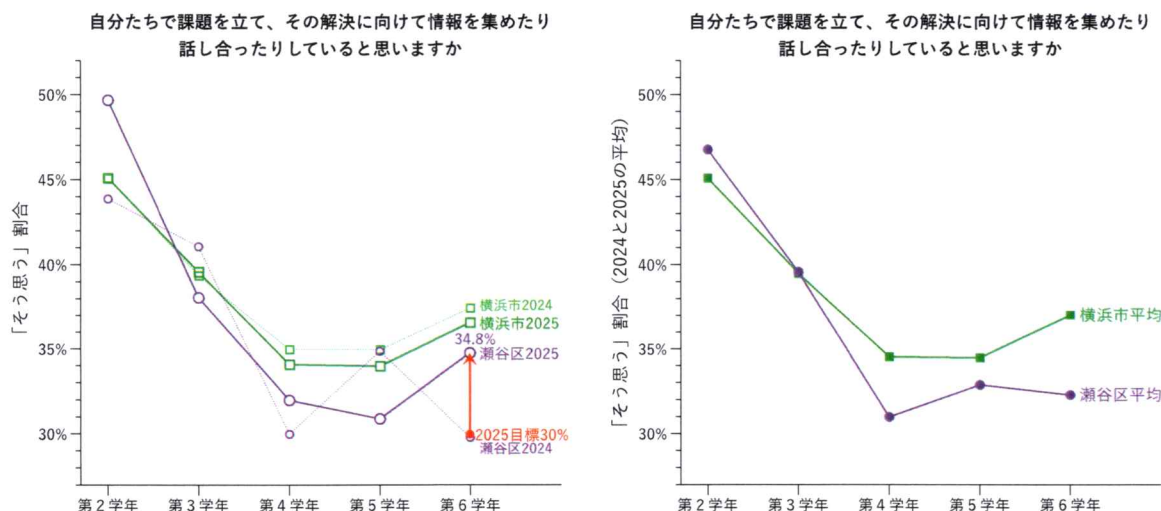


図1 令和7年度の目標指標

令和7年度の結果は図1の左に示すとおりである。ただし、図1には第6学年以外の学年の結果も示しており、さらに横浜市全体の結果も示してある。令和7年度の目標値30.0%に対して、第6学年の割合は34.8%となっており、目標を達成している。

図1の右に示したのは、横浜市全体と瀬谷区のそれぞれにおいて、令和6年度と令和7年度の結果をまとめて、学年ごとに「そう思う」の割合を示した結果である。瀬谷区における「そう思う」の割合は、第2学年と第3学年では横浜市と同程度であるが、第4学年以降は横浜市よりも小さくなる。第4学年で「そう思う」の割合が下がらないようにする方策が求められていると言える。

3 役割別の周りの人の数

図2は、役割別の周りの人の数の分布を示したものである。図中の数値は累積の割合であり、図の右端に示したのは平均人数である。また役割は平均人数の降順に並べ替えてある。

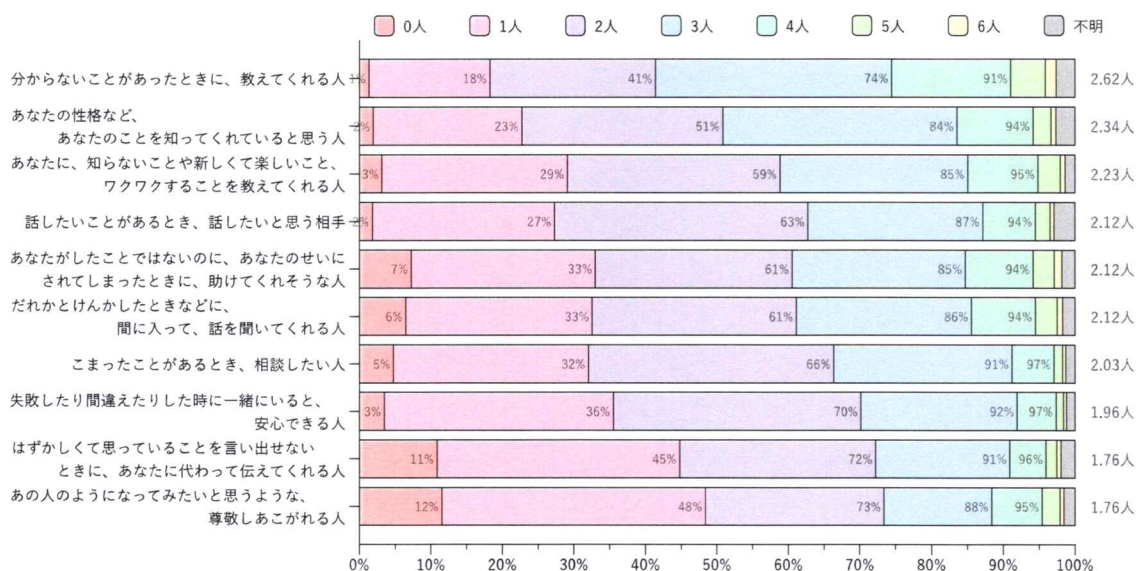


図2 役割別の周りの人の数

人数が最も多いのは「分からないことがあったときに、教えてくれる人」であり、平均2.62人となっている。一方で、最も人数が少ないのは「あの人のようになってみたいと思うような、尊敬しあこがれる人」であり、平均1.76人である。

4 放課後学習支援教室への参加の有無の間での比較

本節では、放課後学習支援教室への参加の有無の間で、自分の考え方に関する各項目の回答を比較する。各図の横軸の「あり」は放課後学習支援教室へ参加した児童を表し、「なし」は参加していない児童を表す。

全体的な傾向として、特に第2学年から第4学年では、放課後学習支援教室に参加している児童の方がポジティブな回答が多い傾向が見られる。

4.1 課題設定

図3は課題設定に関わる項目「みの周りにおける色々なことにきょうみをもつ方だと思いますか」、「新しいことに挑戦したいと思いますか」について、放課後学習支援教室への参加の有無の間で回答を比較した結果である。特に「みの周りにおける色々なことにきょうみをもつ方だと思いますか」に対して「そう思う」割合は、学年が上がるにつれて減っていくが、第5学年を除くとどの学年でも、放課後学習支援教室に参加している児童の方が、参加していない児童よりも「そう思う」の割合が大きい。

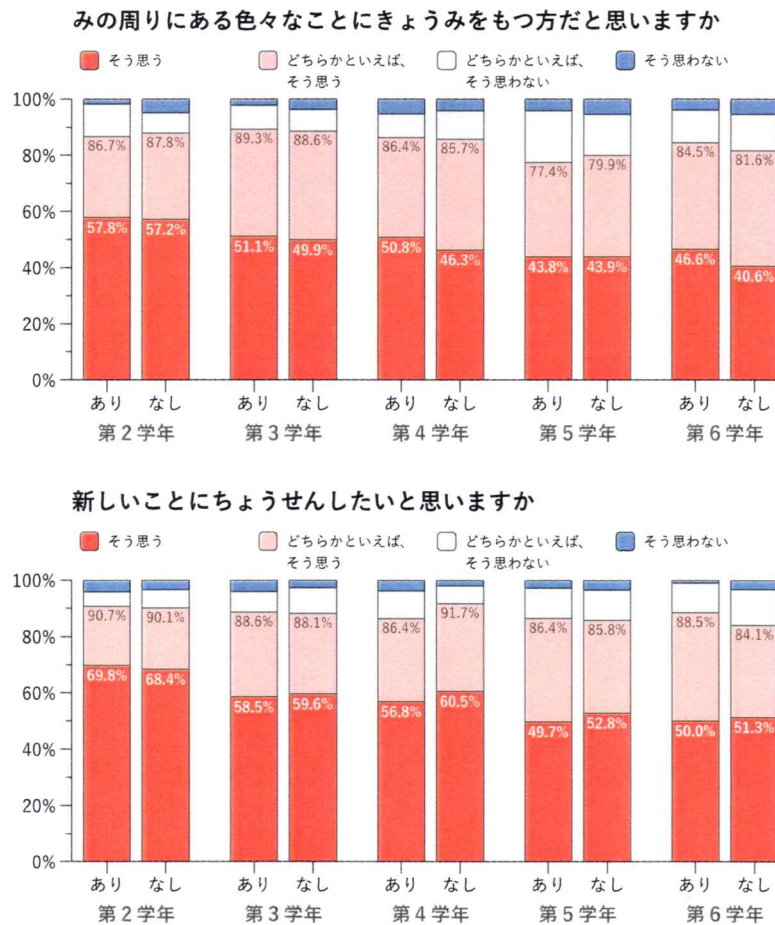


図3 課題設定

4.2 情報収集

図4は情報収集に関わる項目「気になったことがあると、とことんしらべたいと思いますか」、「失敗したことからヒントを見つけることはありますか」、「ほかの人の考え方も聞いて、自分の考えたやり方や理由を、見つめ直すようにしていますか」について、放課後学習支援教室への参加の有無の間で回答を比較した結果である。特に第2学年から第4学年では、放課後学習支援教室に参加している児童の方が「そう思う」の割合が大きい傾向が見られる。

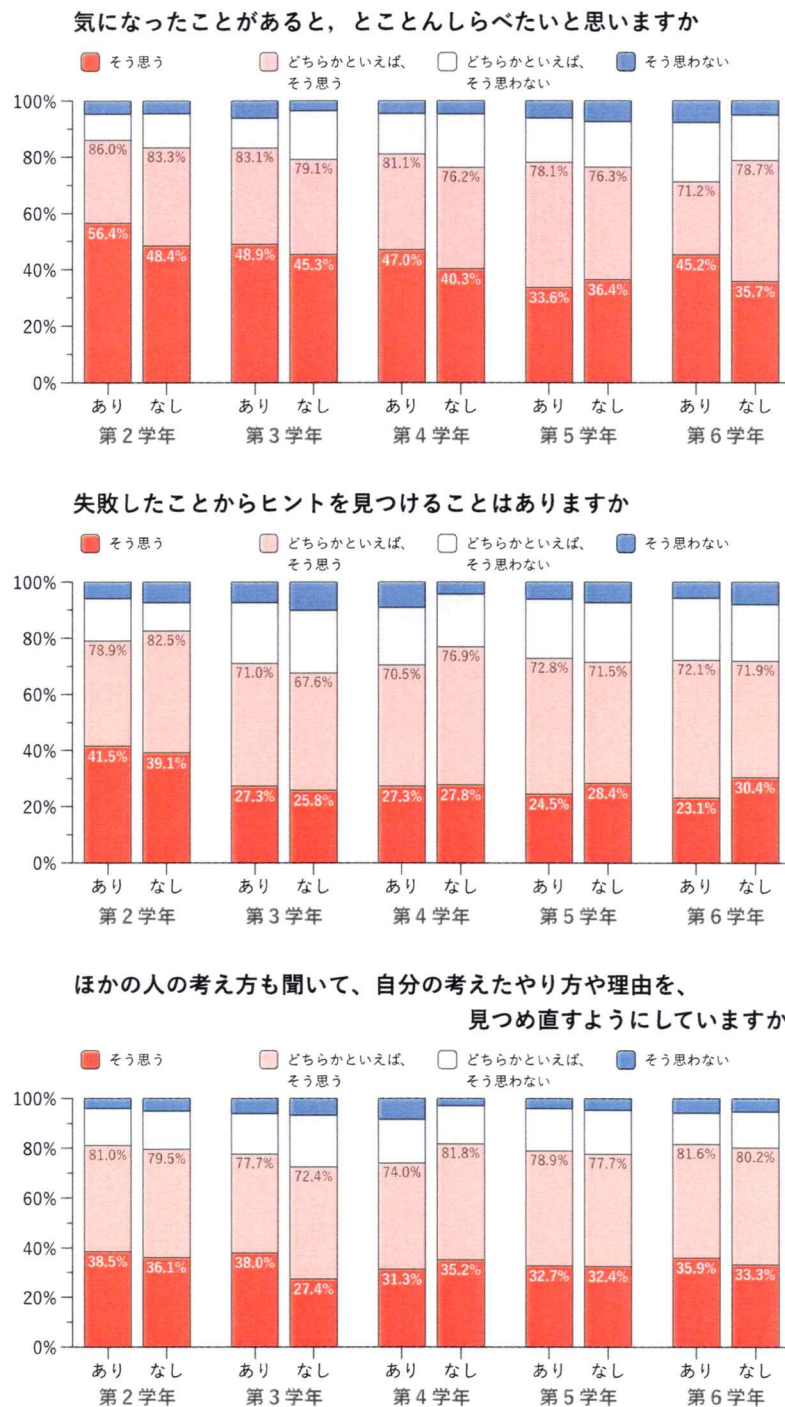


図4 情報収集

4.3 整理分析

図5は整理分析に関わる項目「何かにとり組んでいるとちゅうに、自分のやり方がうまくいっているか、たしかめながらとり組むようにしていますか」、「自分の知っていることをむすびつけながら考えるようにしていますか」、「うまくいかないときには、なぜできないのかを考え、やり方をかえたりしていますか」について、放課後学習支援教室への参加の有無の間で回答を比較した結果である。特に第2学年から第5学年では、放課後学習支援教室に参加している児童の方が「そう思う」の割合が大きい。

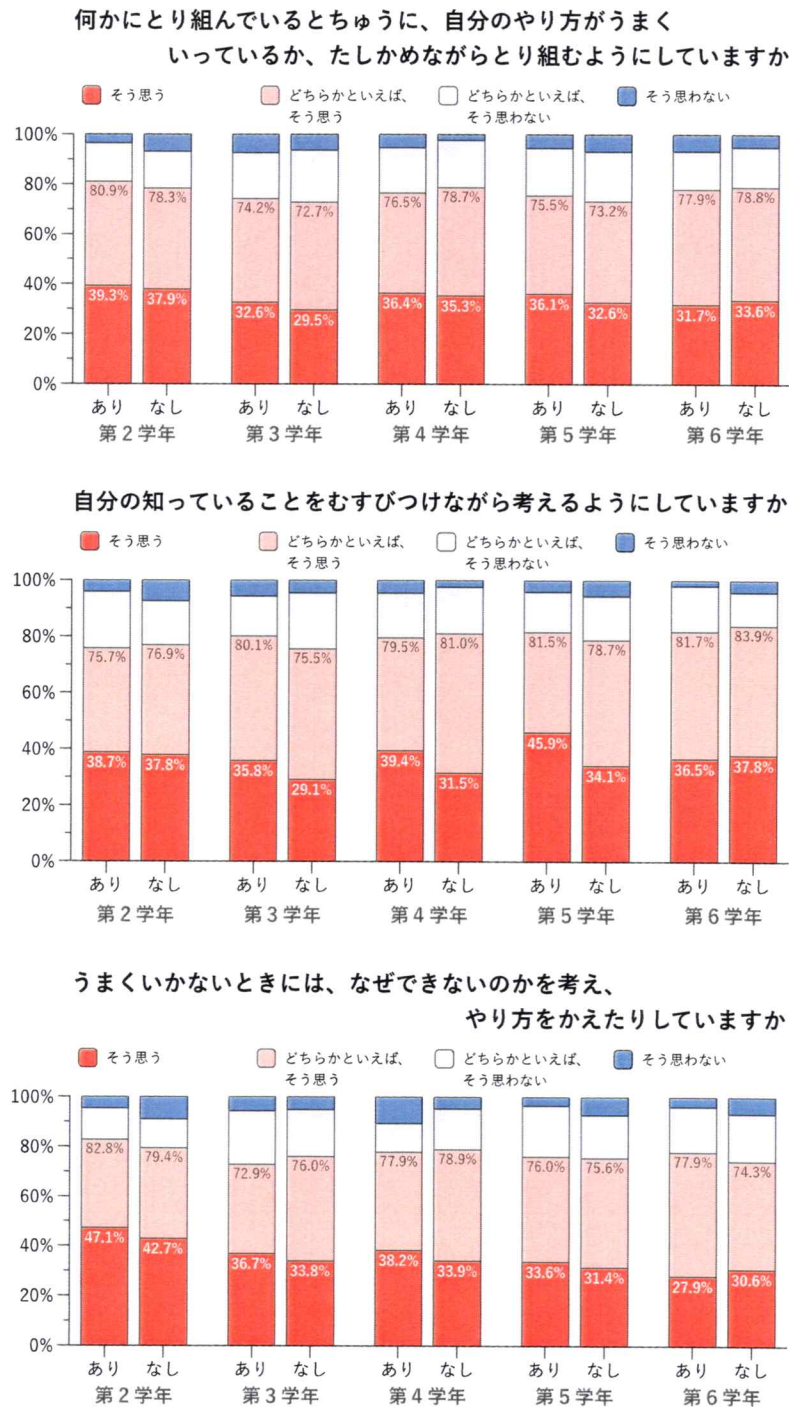


図5 整理分析

4.4 まとめ発表

図6はまとめ発表に関わる項目「はっきりした答えが出るまで、ずっと考える方だと思いますか」、「最後まで決めたことをやる方だと思いますか」、「決めた事をやり終えるまで、楽しい事をあとにする方だと思いますか」について、放課後学習支援教室への参加の有無の間で回答を比較した結果である。特に第2学年から第4学年では、放課後学習支援教室に参加している児童の方が「そう思う」の割合が大きい傾向が見られる。

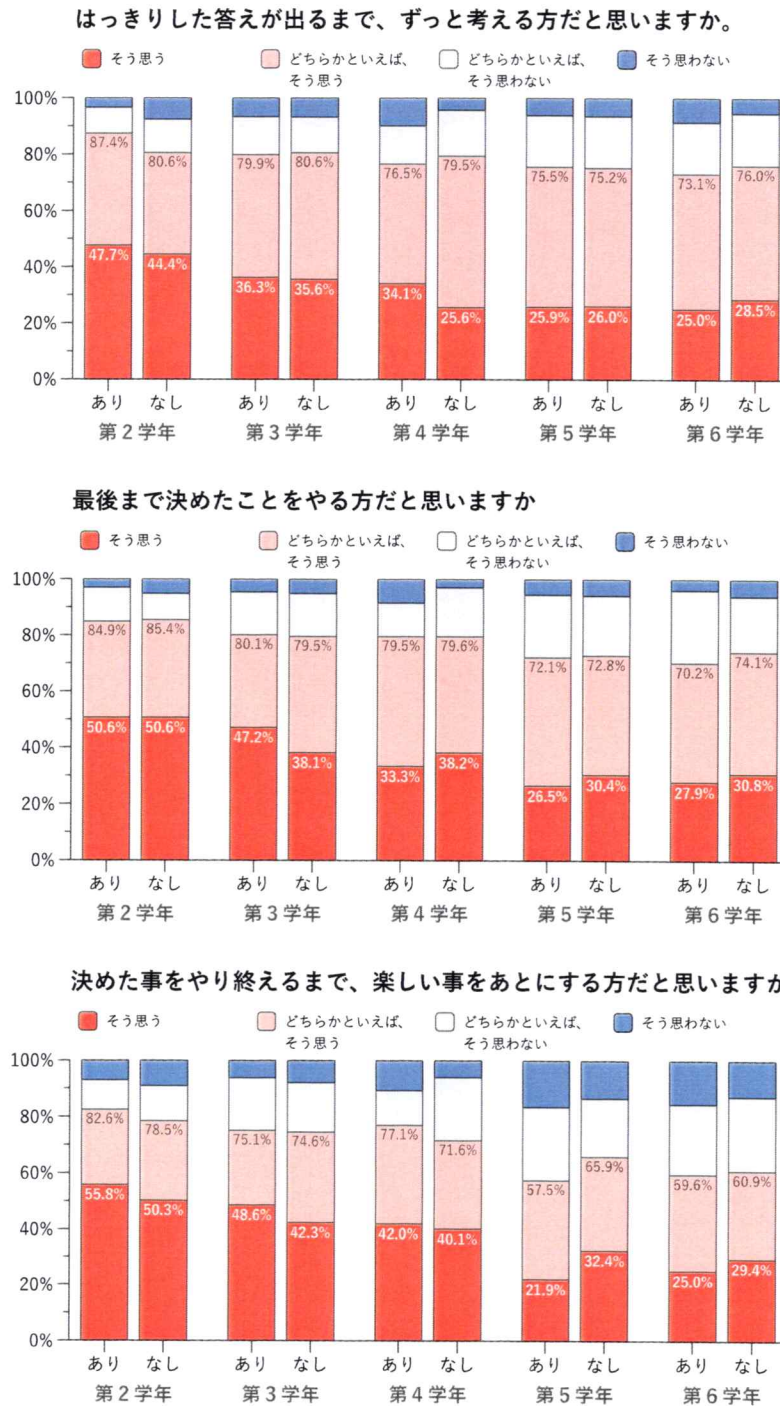


図6 まとめ発表

5 学力偏差値の比較（周りの人の数）

図7から図10は、令和7年度横浜市学力・学習状況調査の各教科調査結果を、瀬谷区の中で学年・教科ごとに偏差値化した上で、個人ごとに求めた平均値を学力偏差値とし、役割ごとに周りの人の数の間で学力偏差値を比較した結果である。なお、赤点で示したのは平均値である。また、 η で示したのは相関比であり、値が大きいほど人数と学力偏差値の間の関係が強いことを表す。

周りの人の役割や学年によって程度の違いはあるものの、概して周りの人の数が多いほど学力偏差値の平均値は大きくなる傾向が見られるようである。特に η の値が大きいのは「あなたに、知らないことや新しく楽しいこと、ワクワクすることを教えてくれる人」や「分からないことがあったときに、教えてくれる人」であり、それらの人が多くいほど学力も高いことが分かる。

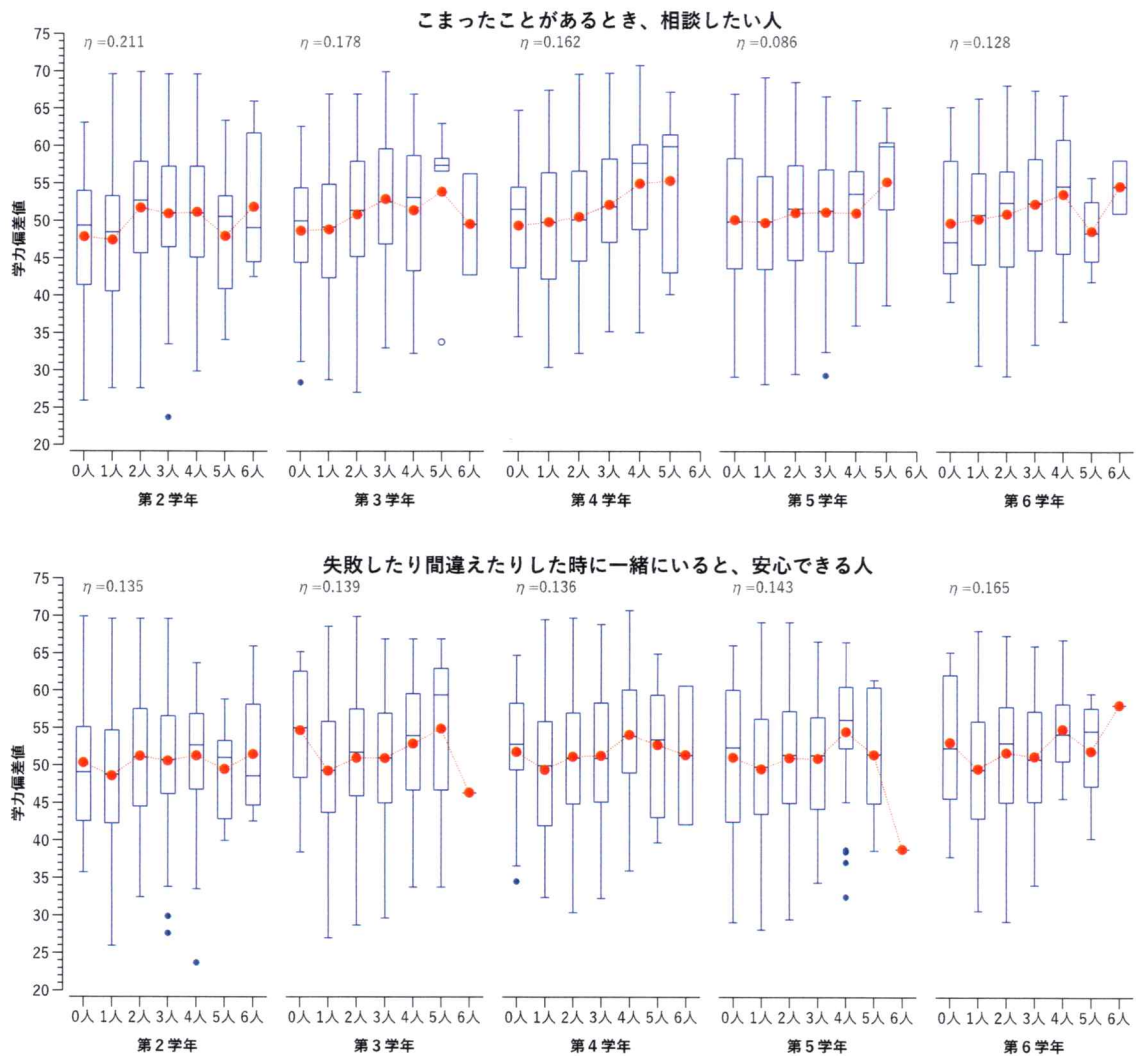


図7 周りの人の数別学力偏差値（その1）

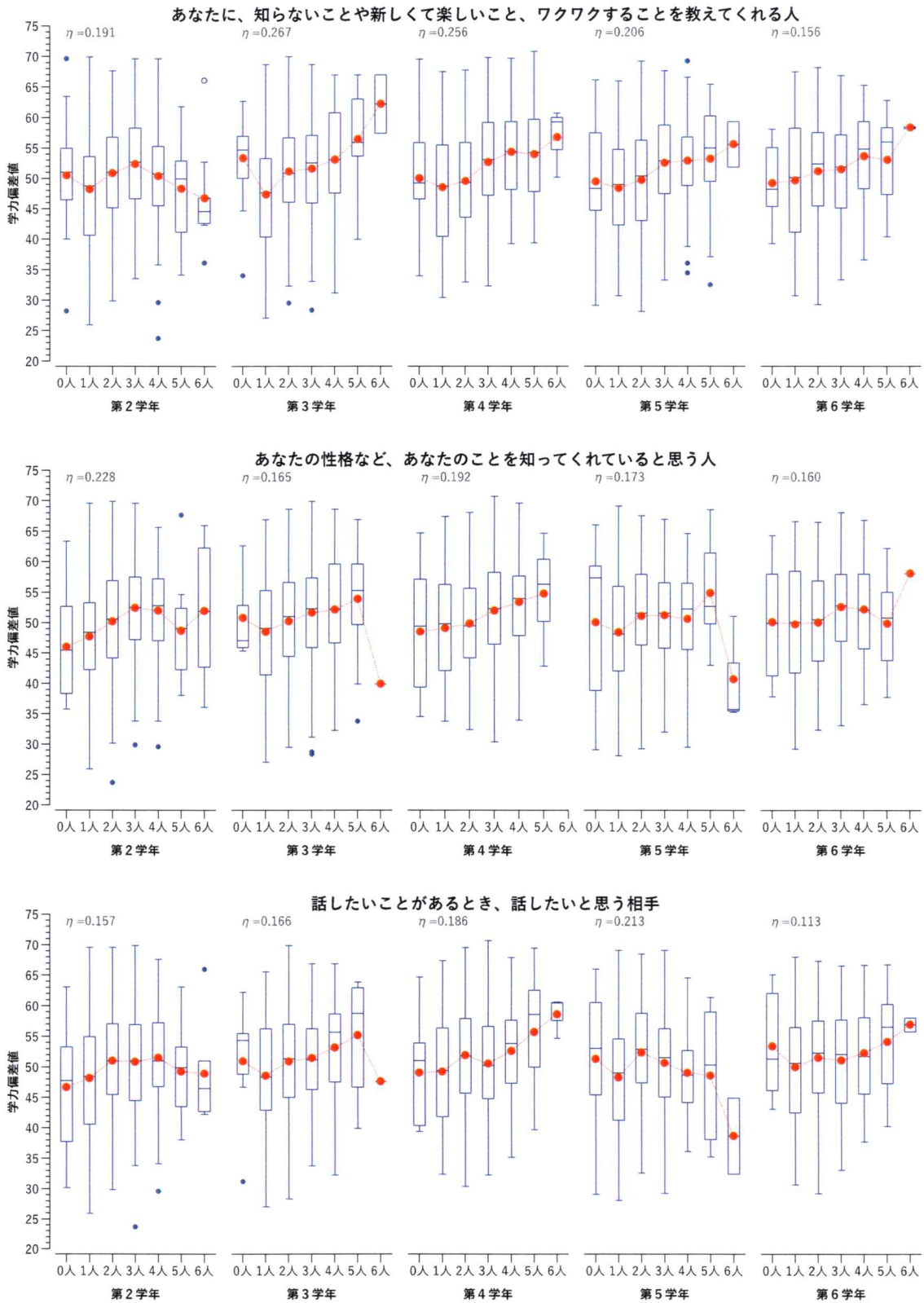


図8 周りの人の数別学力偏差値 (その2)

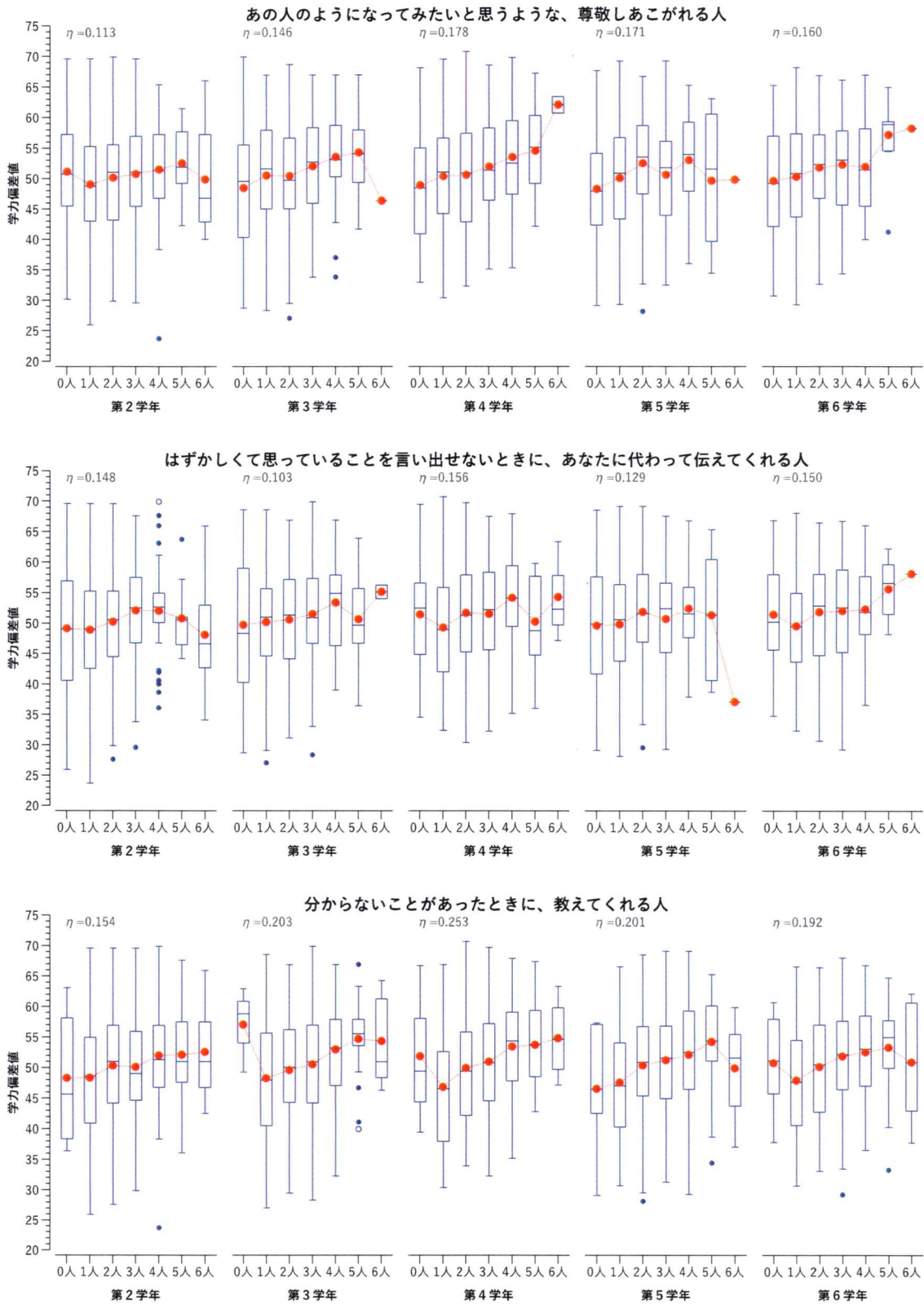


図9 周りの人の数別学力偏差値 (その3)

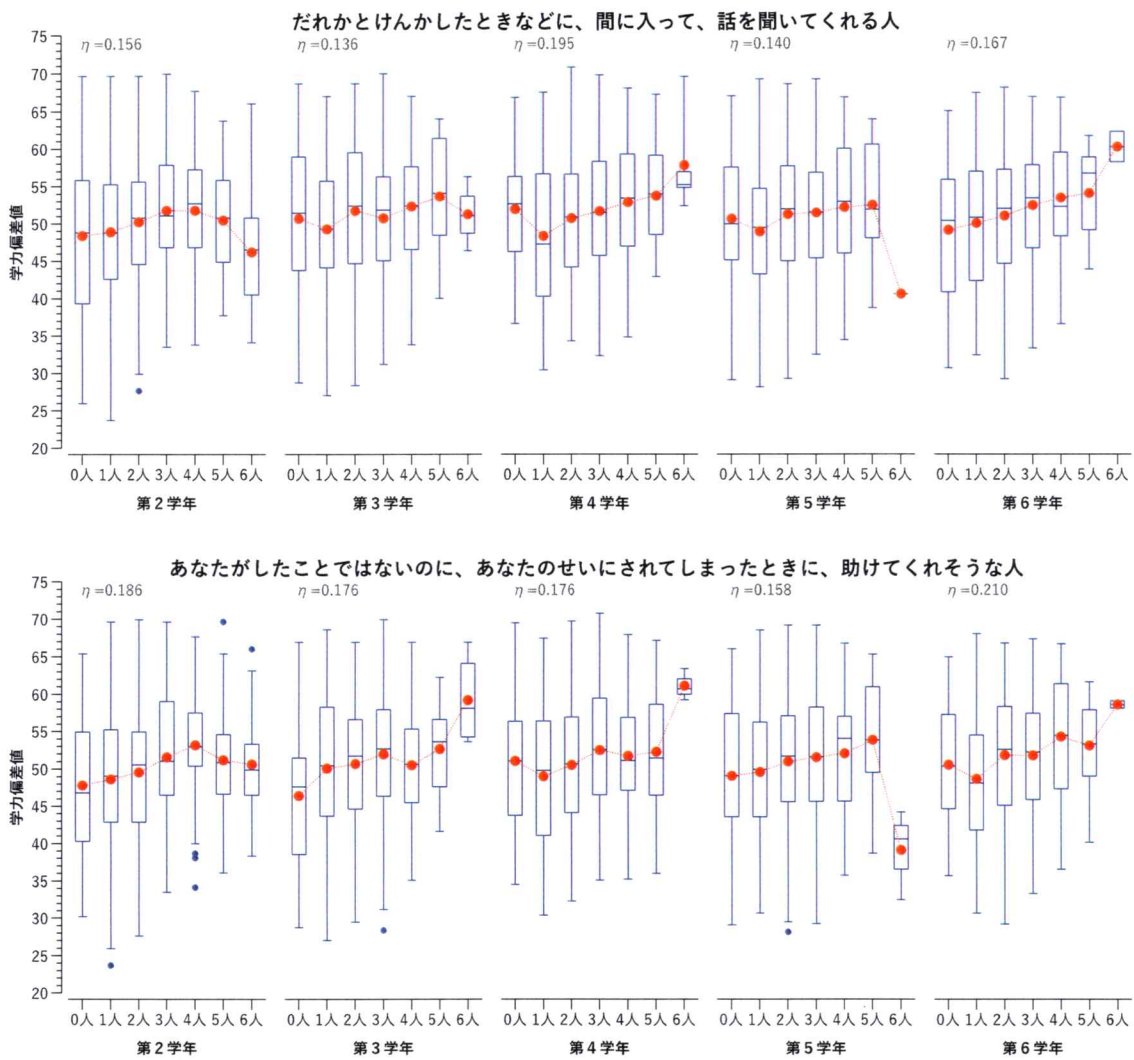


図10 周りの人の数別学力偏差値（その4）

6 学力偏差値の比較（非認知能力）

本節では、令和7年度横浜市学力・学習状況調査の各教科調査結果を、瀬谷区の中で学年・教科ごとに偏差値化した上で、個人ごとに求めた平均値を学力偏差値とし、非認知能力に関する各項目の回答の間で学力偏差値を比較した結果である。なお、赤点で示したのは平均値である。また、 η で示したのは相関比であり、値が大きいほど回答と学力偏差値の間の関係が強いことを表す。

6.1 課題設定

図 11 は、課題設定に関する項目の回答別に学力偏差値を比較した結果である。 η によれば、特に「みの周りにある色々なことにきょうみをもつ方だと思いますか」に「そう思う」と回答している児童ほど学力が高い傾向が見られる。

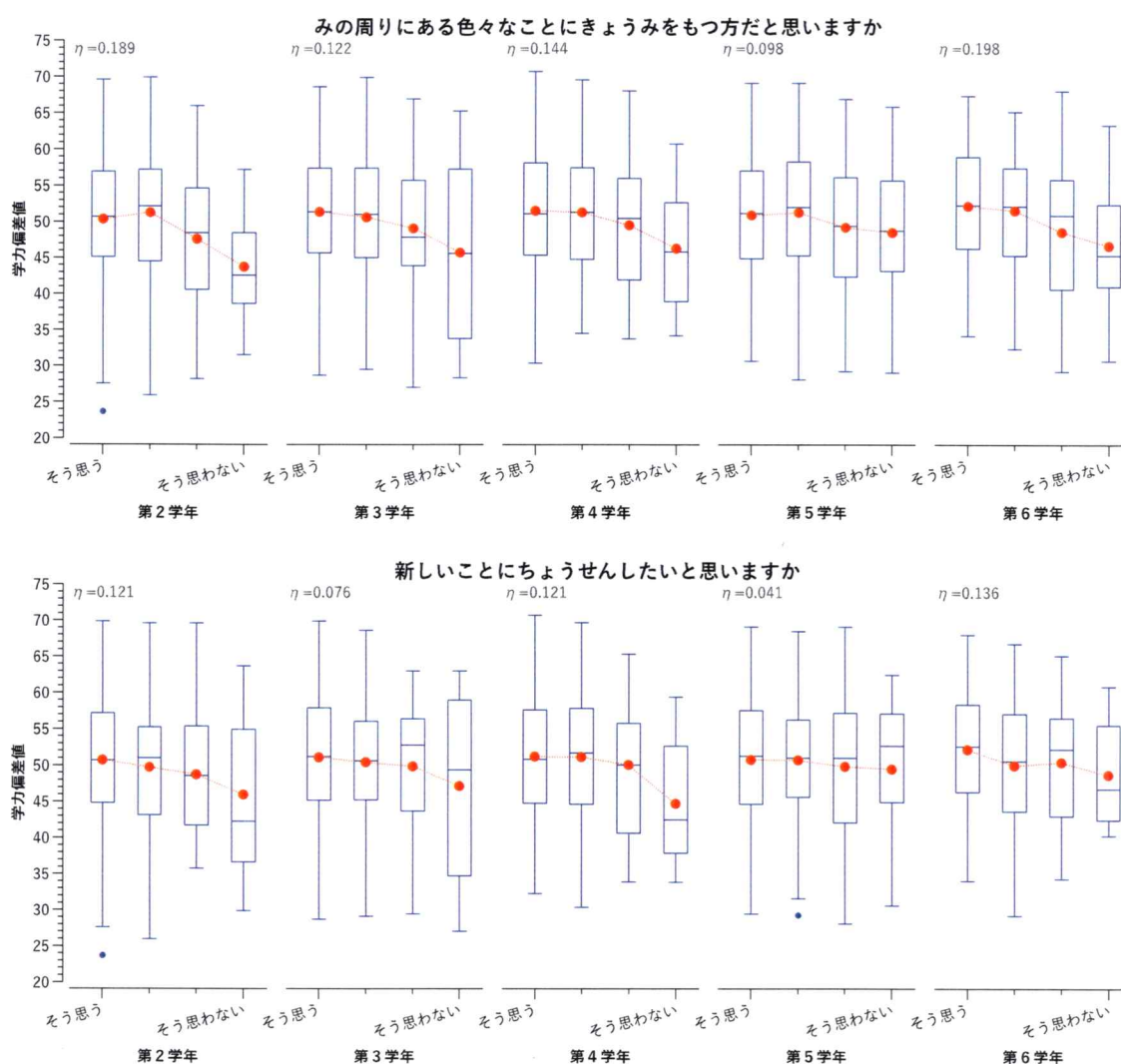


図 11 課題設定に関する項目の回答別学力偏差値

6.2 情報収集

図 12 は、情報収集に関する項目の回答別に学力偏差値を比較した結果である。いずれの項目においても「そう思う」と回答している児童ほど学力が高い傾向が見られる。

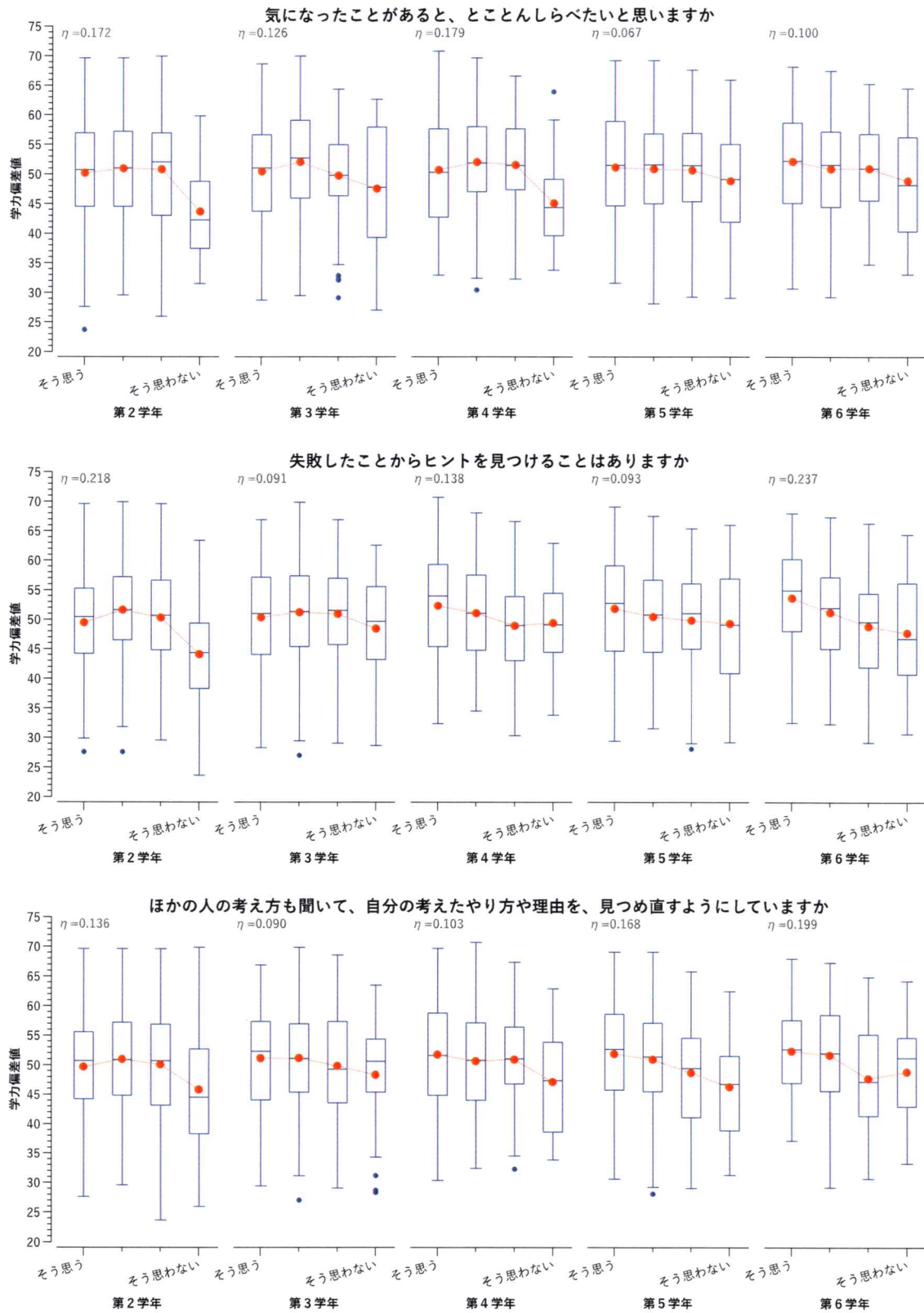


図 12 情報収集に関する項目の回答別学力偏差値

6.3 整理分析

図 13 は、整理分析に関する項目の回答別に学力偏差値を比較した結果である。いずれの項目においても「そう思う」と回答している児童ほど学力が高い傾向が見られる。

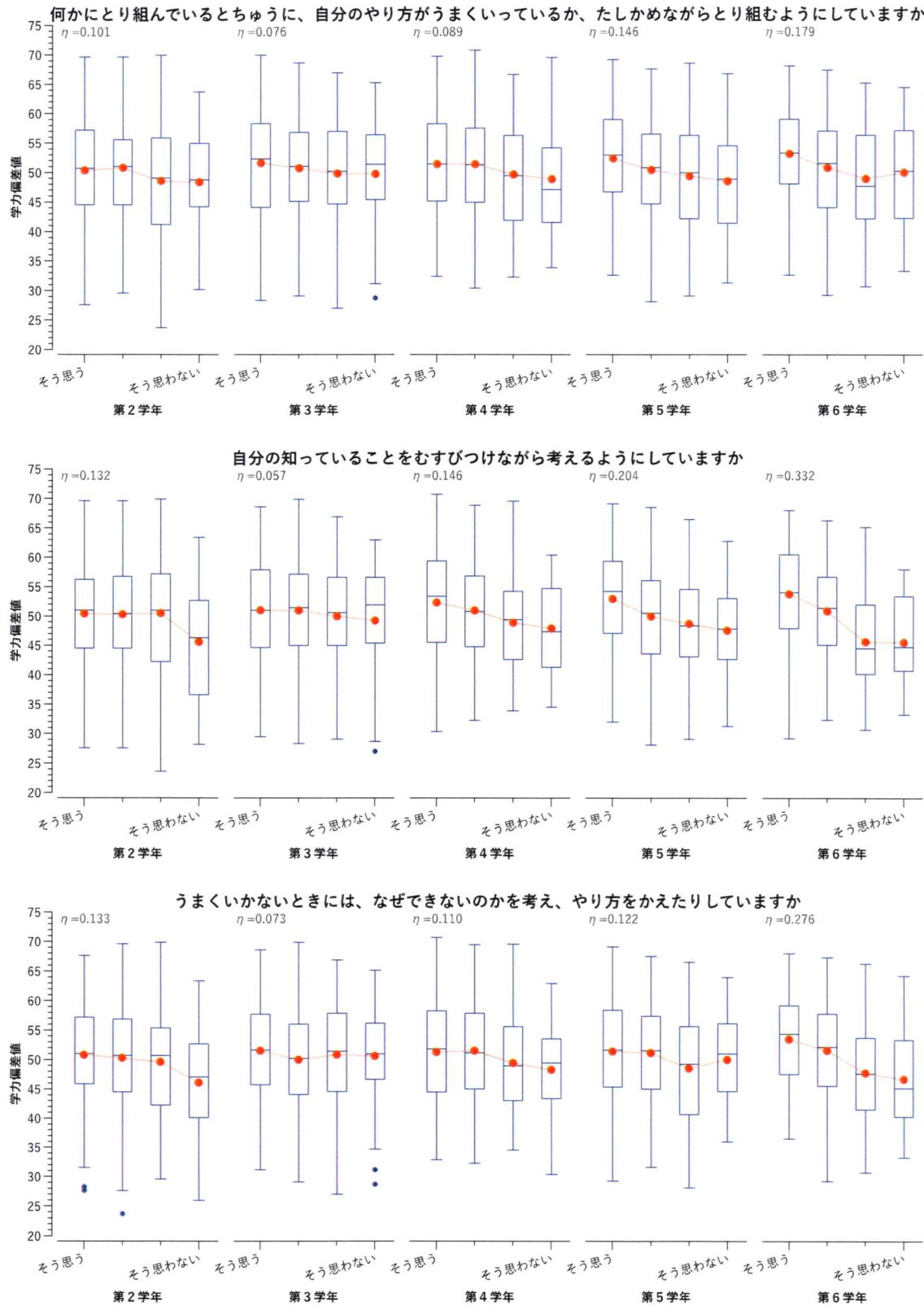


図 13 整理分析に関する項目の回答別学力偏差値

6.4 まとめ発表

図 14 は、まとめ発表に関する項目の回答別に学力偏差値を比較した結果である。 η によれば、特に「はっきりした答えが出るまで、ずっと考える方だと思いますか」に「そう思う」と回答している児童ほど学力が高い傾向が見られる。

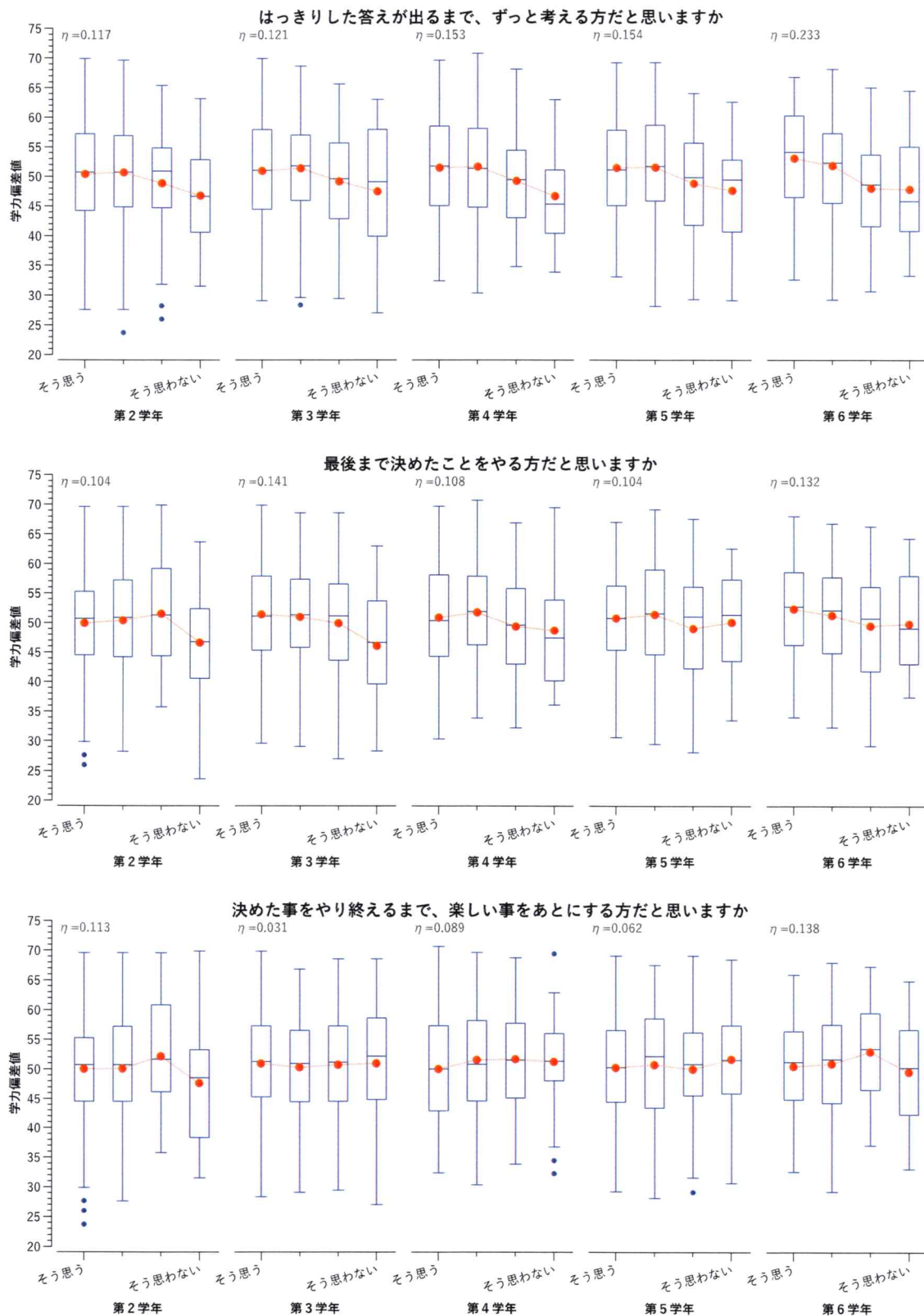


図 14 まとめ発表に関する項目の回答別学力偏差値

7 「役割」と「取組」からの考察

「令和7年度 横浜市学力・学習状況調査」と「周りの人、学習意識に関する調査」から、瀬谷区の子供たちの学習意識について考察する。

今回の調査は、昨年の指標設定を受けて、第1回目の結果となる。

「V08 自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集めたり話し合ったりしていると思いますか」との相関係数が最大であったため、他者との協働による課題解決の重要性を鑑み、施策目標として欠かせない項目と設定した。

瀬谷区の子供の学習意識の特徴として、学年が上がるにつれて、日常生活における学習意識が低下し、学校における学習意識が低下する傾向がある。そこで、瀬谷区における教育施策の目標指標としては、日常生活における学習意識の指標である、「V08 自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集めたり話し合ったりしていると思いますか」を支える手立てを講じ「学校における学習意識」の一助となればと取り組んできた。

表3 第2因子V08 第6学年の「そう思う」の目標値 (R6年：29.8)

	R7年	R8年	R9年	R10年	R11年
V08 自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集めたり話し合ったりしていると思いますか	30.0 結果 34.8	30.5	31.0	31.5	32.0

上記の表は、日常生活の学習意識であるV08の各年度の第6学年の「そう思う」の目標値を示している。昨年度の第6学年のV08の質問の「そう思う」の回答の割合は29.8であり、今年度は34.8となり、グラフからも横浜市の割合に近づいていることが分かる。

次年度R8年度の第6学年（現在の5年生）の「そう思う」の目標値は、30.5である。各学年の子どもたちの特性もあるが、順次、下げずに目標値を上げていくことを目標としている。

7.1 役割別の周りの人の数の調査結果から

学習指導要領の改定の経緯及び基本方針には、「人工知能（AI）の飛躍的な進化の時代、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。」と記載されている。

「他者と協働して課題を解決していくこと」の視点から、瀬谷区の子どもの放課後学習支援教室での姿を見てみると「聞きたいこと」があっても、なかなか周りの人に聞けない状況があることが分かっている。そのために、ナナメの関係の評価されない関係の人間関係をつくり、「聞きたいこと」を聞ける大人を増やす努力と友達同士教え合ったり異学年が教え合ったりする場を大切にしてきた。それは、年度末におけるア

ンケート調査の結果からも示唆されている。

さらに、今回は、AIについての視点を取り上げ、指標実現に向けた取組の一つの手立てとなるのではないかという仮説の下、考察を試みた。ここ数年の間も生成AIの話題へと進化してきている。(株)アクセンチュアの保科学世(2024)がいう「仕事に求められる能力を生成AIがもっている」という考えを元に、日常生活における学習意識を支える手立ての可能性を探る。

7.1.1 周りの人の役割

昨年度の「周りの人、学習意識に関する調査」では、「周りの人」を①～⑥に設定し、調査した。①放課後学習支援教室の先生、②キッズクラブ・学童の先生、③友達、④学校の先生、⑤保護者・おうちの人、⑥その他の人(例・地域の人など)、⑦いないを設定し、⑦を選択した子供も実際に存在した。

今年度は、上級生に憧れる子どもが存在することから、選択肢を①放課後学習支援教室の先生、②友達、③上級生、④学校の先生、⑤おうちの人、⑥その他の人(例・地域の人など)、⑦いないとした。

「周りの人の役割」という視点は、昨年度同様、9つの役割を設定し、調査した。

①評価しない役割、②安心する役割、③新しい価値観の提供者、④遊び・話し相手、⑤モデル、⑥翻訳者、⑦相談相手、⑧理解者、⑨仲介者である。

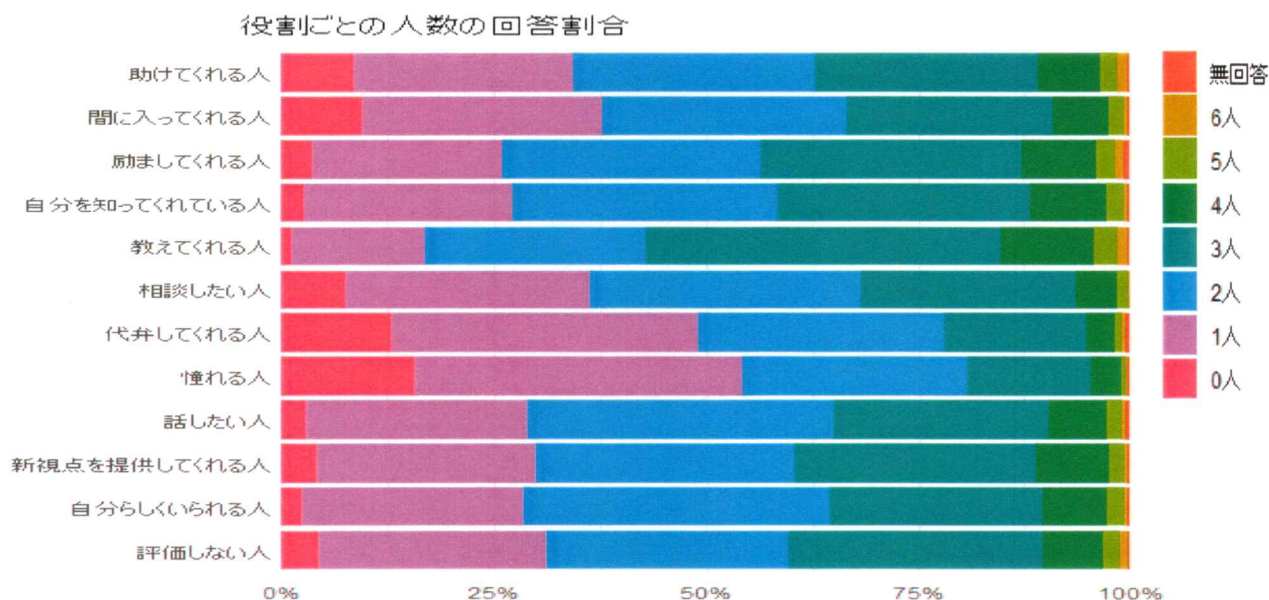


図 15 2024 年度の子供の役割を担う人の数の回答割合

昨年度は「モデル(憧れる人)」がいない子供が50%を超え多かったが、今年度も「モデル(憧れる人)」が一番少ない結果ではあるものの、0人と1人を合わせた最小の割合が48%と若干減った結果となっている。

次に「代弁してくれる人(翻訳者)」がいない子どもが二番目に少ない結果であるの

も、昨年と同じ結果であるが、「モデル（憧れる人）」と同じように最小の割合が45%と若干割合が減っている。

第三番目に少ない「仲介者（間に入ってくれる人）」も同じ順位ではあるが、最小の割合が33%と割合が減ってきている。

①「あの人のようになってみたいと思うような、尊敬しあこがれる人」が0人：12%は、一クラスの中の1割以上が0人の可能性があり、半数近くが1人しかいないのである。この一人が誰であるかは、もう少し分析する必要がある。

調査対象3,610人のうち、約2,166人が「尊敬し憧れる人がいない」と悲しい結果となっている。A校の校長先生が「委員会活動の中で憧れる先輩がいた」と学校便りで紹介してくださった。以外と身近にいるにもかかわらず、回答の範疇に入らなかったのは、価値付けがされていないからではないだろうか？

②「はずかしくて思っていることを言い出せないときに、あなたに変わって伝えてくれる人」が5割、③「あなたがしたことではないのに、あなたのせいにされたときに、助けてくれそうな人」及び④「だれかとけんかしたときなどに、間に入って、話を聴いてくれる人」が4割と多いところをアドバイザーが担えればよいのだが、家庭や地域も含めて、どう補完していくかの策を考えていかなければならない。

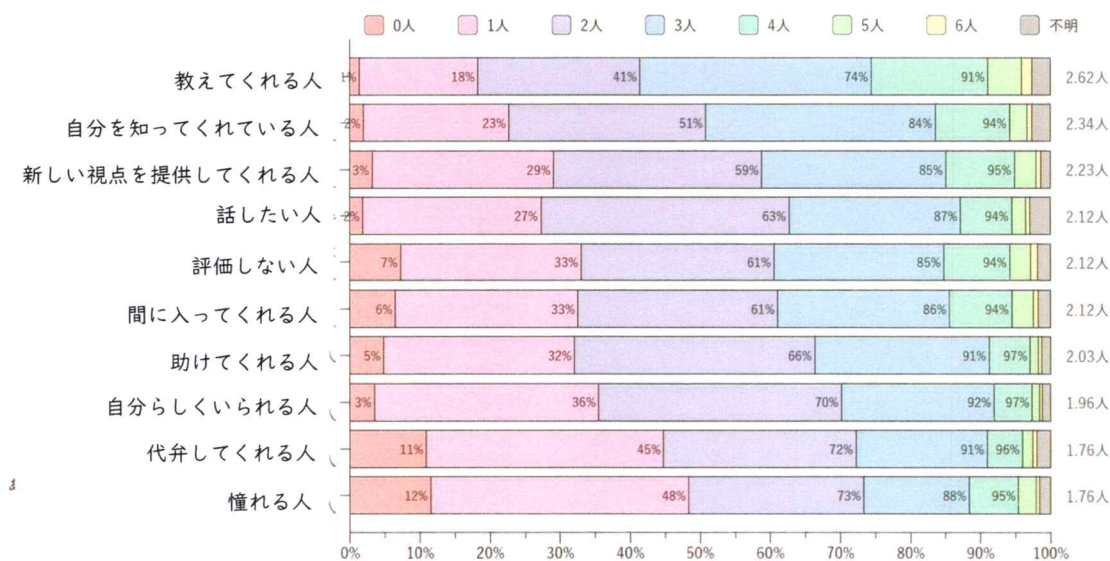


図 16 2025 年度の子供の役割を担う人の数の回答割合

7. 1. 2 周りの人の役割の一部分を担う「生成 AI(&書籍)」

上図「2025 年度の子供の役割を担う人の数の回答割合」は、横浜市全体等の比較ができていないものの、質問に対する「相手」が0人あるいは1人という回答が多い順に並べながら、「相手」を生成 AI に代わるものがないのか？という仮説を持ちながら、相手がいない項目順に仮説を当てはめてみた。

①「あの人のようになってみたいと思うような、尊敬しあこがれる人」

<0人：12%/1人：48%>役割：憧れるのは、苦労したり、悩んだりしながら成功していく「人」であろう。生成AIがモデルにはなれないであろう。

②「はずかしくて思っていることを言い出せないときに、あなたに変わって伝えてくれる人」<0人：11%/1人：45%>役割：翻訳者も外国語の翻訳と違い、言葉の代弁ではなく、気持ちの代弁であろう。AIに気持ちを押し量ることは無理であろう。

③「あなたがしたことではないのに、あなたのせいにされてしまったときに、助けてくれそうな人」<0人：7%/1人：33%>役割：評価しない役割は正解がないので無理！！

④「だれかとけんかしたときなどに、間に入って、話を聴いてくれる人」

<0人：6%/1人：33%>役割：仲介者も対面でAIは集会できません。

上位①～④については、AIとの協働では補完することが難しいと考えられる。

ここで論述している「7.1.2 周りの人の役割の一部分を担う「生成AI (&書籍)」のタイトルは、本当に正しいのだろうか？仮説になり得るのかを自問自答する。ここまですべて、生成AIでは代われない役割ばかりであった。この部分を10年間続けてきた「ナナメの関係のアドバイザー」が担うことができると主張してきた。そして、アドバイザーに限らず、各事業所のスタッフ、ボランティア、保護者、学校の教職員が担うことによって、子供は安心感と自信を土台にして成長してきたのである。

これからも、その役割を意識した関わりは重要である。

生成 AI が担う部部はあるのか？保科学世（2024）は、「対立ではなく、いかに AI と協働するか」の中で、次のように論述している。

<人間と AI のハイブリッド活動>

⑦相互学習：

生成 AI は世の中のさまざまな知見にアクセス可能であり、そこから多くのことを人間は学ぶことができる。一方で AI の応答が必ずしも正しいとは限らず、自分に寄り添った存在であるとも言い切れない。今後、人間は AI から学ぶとともに、活用したフィードバックを AI に行うことで自分好みの AI を育てていく能力を求められる。さらには、何からでも吸収し続けていく姿勢を常に持ち、何歳になっても向学心を絶やさないことが大切だ。

保科学世（2024）p. 027

私も最近になって、やっとのことで生成 AI に気軽に相談したり、イラストを作成してもらったりするようになった。

使いこなしているわけではないが、文部科学省のガイドラインや大学の中での議論の中で、AI との共生について真剣に考えざるをえなくなってきた。

「ICT は道具である」という考え方は、根強く意識の中にある。今回の調査結果から生成 AI を相手と見なすことができるのか？保科学世（2024）の考えを参考にしながら、生成 AI との共生を前提にそれぞれの役割の可能性を述べる。

以下、5 位以降の役割について、生成 AI との共生の可能性を記述する。

⑤「こまったことがあると相談したい人」

<0 人：5%/1 人：32%>役割：「相談相手」

生成 AI は、機材と環境さえ整っていれば、相談相手となり得る。

⑥「失敗したり間違えたりしたときに一緒にいると、安心できる人」

<0 人：3%/1 人：36%>役割：「安心な場所」

失敗したり間違えたりしたことを一人で悩むのではなく、生成 AI に問うことはできる。失敗の原因、間違いのポイントを指摘してもらえれば、安心できるかもしれない。「プロンプト」がキーワードになるであろう。

⑥「あなたに、知らないことや新しく楽しいこと、ワクワクすることを教えてくれる人」<0 人：3%/1 人：29%>役割：「新しい視点の提供者」

この役割は、生成 AI が一番得意とする役割ではないだろうか？ネットワーク上にある情報を網羅すること、ある一定の条件の中でヒントを教えてくれる可能性は、使い方次第であると考えられる。

⑦「話したいことがあるとき、話したいと思う相手」

<0 人：2%/1 人：27%>役割：「遊び・話し相手」

⑥と同じく、生成 AI が一番得意とする役割ではないだろうか？実際の放課後の子どもたちの生活では、生成 AI が組み込まれた多くのゲームで「遊び・話し相手」になっている現実がある。

⑦「あなたの性格など、あなたのことを知ってくれていると思う人」

<0人：2%/1人：23%>役割：「理解者」

プロンプトに具体的なプロンプトを入力しながら、保科（2024）は、「自分の AI を育てていこう」と主張している。そんなことができるか？私自身の問いでもある。

⑧「分からないことがあったときに、教えてくれる人」

<0人：1%/1人：18%>役割：「分からないことがあったときに教えてくれる人」

相談相手の役割は、老若男女を問わず、全世界の人たちが生成 AI を相談相手として活用している。ある意味では、自分が使っていないと思っても、生成 AI が答えている現実がある。

保科学世（2024）は、仕事に求められる能力を生成 AI がもっていると言う。

2022 年末、ChatGPT の登場により世の中は大きな衝撃を受けた。ChatGPT について、公開からわずか数ヶ月で、「MBA 最終試験に対する解答が B（合格レベル）評価」「米国医師資格試験に対する正答率が合格ラインに到達」といった報道がなされ、さらにそれからわずか1ヶ月ほどで、「米国司法試験に対する解答が上位 10% のスコアを獲得」「日本の医師国家試験に合格」という報道もなされた。

これらの報道から、短絡的に弁護士や医師が生成 AI に置き換わると言うつもりは全くないが、ChatGPT のような生成 AI は、弁護士、医師のような極めて専門性が高い職業の業務の在り方まで変えてしまう可能性があると言うことを示したといえる。」

保科学世（2024）pp.018-019.

子供たちが、小学校受験から、中学受験、高校受験、大学受験に追われている現実には、昔から変わらない。

家庭や地域の瀬谷区の2年生は、日常生活における学習意識が横浜市よりも高い傾向は、数年前の調査結果から明らかになっている。瀬谷区の子どもたちのよさを AI ができる範囲で補完できる部分があるのではないかと考える。

保科学世（2024）は、AI 時代に必要なスキルを3つのカテゴリーに分けて提案している。

「人間が AI を補完するためのスキル」

「AI に人間の力を拡張させるためのスキル」

「人間と AI のハイブリッド活動」の3つである。それぞれのスキルを今回の調査項目と重ねて考察する。

<人間がAIを補完するためのスキル>

①人間性回復：

人間は人間の得意とする仕事に注力する。仕事の生産性のみを追求するのではなく、人間の幸福度が最大化するようなかたちで、人間とAIの役割分担を考えることが問われる。自らの頭で考え、他を思いやる。世の中とはどうあるべきかを常に考え、自らに問い続けていく力を身に付けることが求められる。

保科学世（2024）p. 026

はっきりした答えが出るまで、ずっと考える方だと思いますか。

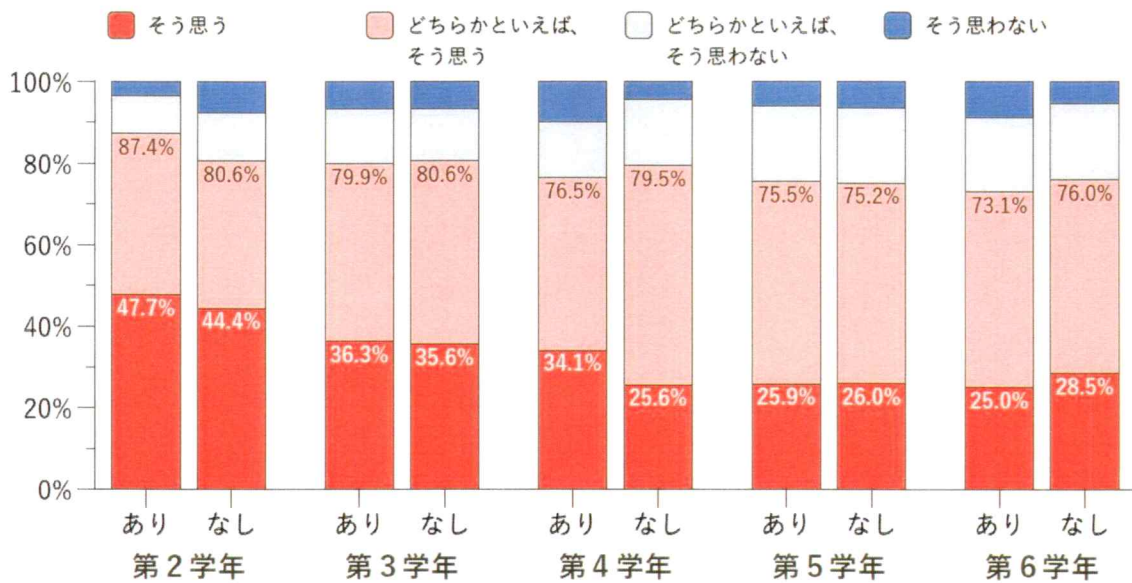


図17 はっきりした答えが出るまで、ずっと考える方だと思いますか

本報告書 p. 7 及び p. 15 の「4.4 まとめ発表：はっきりした答えが出るまで、ずっと考える方だと思いますか」の日常生活における学習意識に重ねて考えることができる。保科がいう「自らの問い続けていく力」は、8割近くの子どもたちが「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている。

この日常生活における学習意識は、AIと協働することによって、よりよい仕事ができる大人に通ずると伝え、自己肯定感を高めてあげたい。

<人間がAIを補完するためのスキル>

②定着化遂行：

業務変革スキルと言い換えてもよい。人間とAIが協働するかたちを単なる実験で終わらせず、業務にしっかり定着させる能力が問われる。自ら掲げた目標を見失うことなく、失敗してもあきらめずにポジティブに考え続け、最後までやり遂げる「やり抜く力」が求められる。

保科学世（2024）p.026

最後まで決めたことをやる方だと思いますか

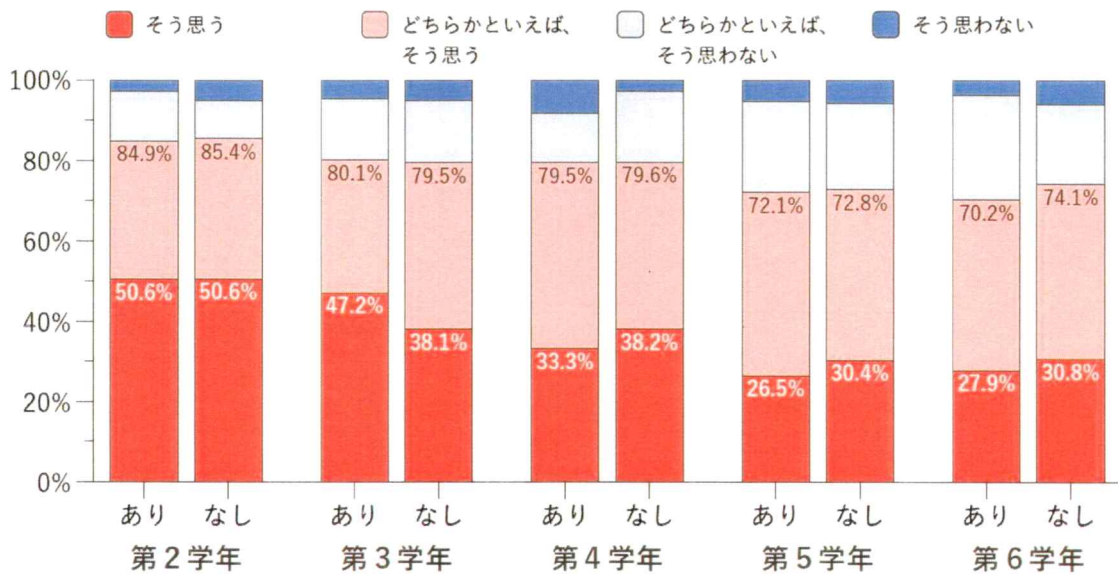


図 18 最後まで決めたことをやる方だと思いますか

本報告書 p.7 及び p.15 「4.4 まとめ発表：最後まで決めたことをやる方だと思いますか」の日常生活における学習意識に重ねて考えることができる。保科がいう「やり抜く力」は、8割近くの子どもたちが「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている。

この日常生活における学習意識は、AIと協働することによって、自ら掲げた目標を見失うことなく、失敗しても諦めずにポジティブに考え続ける子どもを育てるためには、こどもの失敗を笑顔で受け入れ、近くにいる大人が次の成功に向けて共に考える姿勢を示すことによって、瀬谷区の子どもたちのよさを伸ばしていけるのではないかと考える。

<AI に人間の力を拡張させるためのスキル>

④合理的質問：

ChatGPT の普及とともに、プロンプトエンジニアリングという言葉を目にした読書も多いだろう。ChatGPT のような大規模言語モデルでは、質問の投げ方の工夫次第で得られる情報の精度や解答の創造性が大きく変化するため、効果的な答えを引き出せる質問を投げかける能力が問われる。生成 AI を使いこなせるかどうかは人間の「質問力」にかかっている。

保科学世 (2024) p. 026

ほかの人の考え方も聞いて、自分の考えたやり方や理由を、
見つめ直すようにしていますか

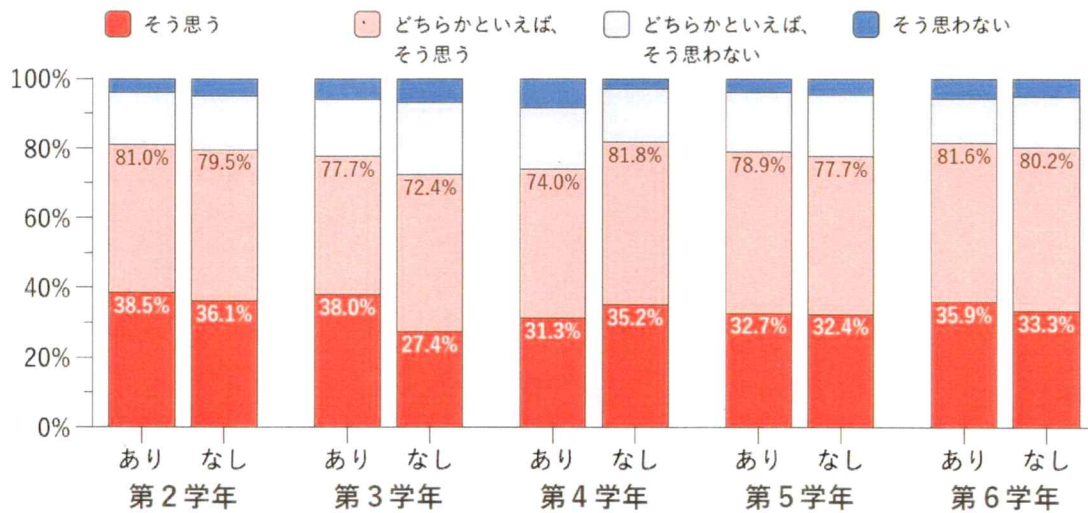


図 19 ほかの人の考えも聞いて、自分の考えたやり方や理由を、見つめ直すようにしていますか

本報告書 p. 5 及び p. 13 「4.2 情報収集：ほかの人の考え方も聞いて、自分の考えたやり方や理由を、見つめ直すようにしていますか？」の日常生活における学習意識を重ねて考えることができる。保科がいう「質問放力」は、8割近くの子どもたちが「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている。瀬谷区の子どもの「この力」を自分自身が見つめ直し、AI と協働するために必要な力として、瀬谷区の子どもたちのよさを伸ばしていけるのではないかと考える。

<AI に人間の力を拡張させるためのスキル>

⑤ロボット活用：

ChatGPT や Copilot に代表されるように、私たちの仕事や生活の様々なシーンで活用できる AI すでに登場している。あらゆる場面で AI の能力を活用していこうと検討を重ね、実用に活用することで、私たちの仕事や生活の質は大きく変わっていく。生成 AI を使いこなすことによって様々な能力拡張が期待できるので、使いこなすためには、「まずやってみる」という姿勢が重要である。

保科学世 (2024) pp. 026-027

新しいことに挑戦したいと思いますか

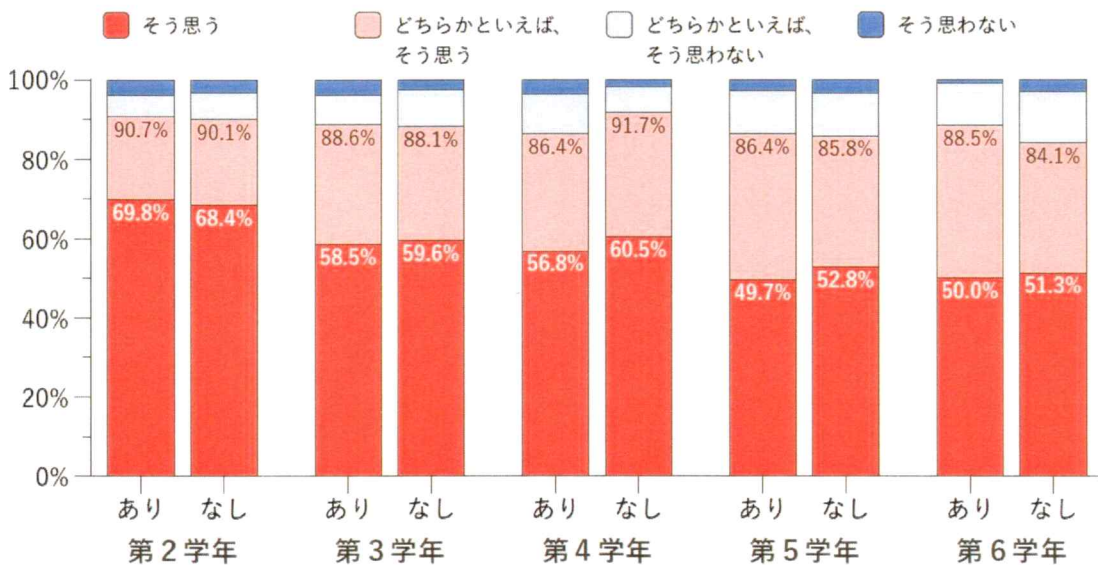


図 20 新しいことに挑戦したいと思いますか

本報告書 p. 4 及び p. 12 「4.1 課題設定：新しいことに挑戦したいと思いますか」の日常生活における学習意識に重ねて考えることができる。保科がいう「まずやってみる」という姿勢は、9割近くの子どもたちが「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている。

瀬谷区の子どもの「まずやってみる」という姿勢を周囲の大人が価値付け、AI と協働するために重要な力として、瀬谷区の子どもたちのよさを伸ばしていけるのではないかと考える。

<AI に人間の力を拡張させるためのスキル>

⑥身体的/精神的融合：

いまだ AI は人間の身体と密接に連携するところまではきていないが、すでにスマートグラスと生成 AI の連携なども始まっている。多くの人が存在をほとんど意識することなくコンタクトレンズを使用するように、生成 AI もまるで体の一部のように、さらには心までも支える存在になるかもしれない。いまや、人には言えない悩みを ChatGPT に相談している読者もいるのではないだろうか。

保科学世 (2024) p. 027

文部科学省 (2024) は、「人間中心の利活用」を掲げ、基本的な考え方において次のように述べ、保科学世 (2024) と重なる考え方であることが分かる。

AI 利用の基本原則として、「AI の利用は、憲法及び国際的な規範の保障する基本的人権を侵すものであってはならない。AI は、人々の能力を拡張し、多様な人々の多様な幸せの追求を可能とするために開発され、社会に展開され、活用されるべきである。」という「人間中心の原則」がある。

これは学校現場においても同様であり、生成 AI と人間との関係を対立的に捉えたり、必要以上に不安に思ったりするのではなく、生成 AI は使い方によって人間の能力を補助、拡張し、可能性を広げてくれる有用な道具にもなり得るものと捉えるべきである。その上で、生成 AI の出力はあくまでも「参考の一つである」「最適解とは限らない」ことを認識するとともに、リスクや懸念を踏まえつつ、最後は人間が判断し、生成 AI の出力結果を踏まえた成果物に自ら責任を持つという基本姿勢が重要である。

初等中等教育段階における 生成 AI の利活用に関するガイドライン (2024) p. 7
次に「教師の役割と生成 AI」と題して、次のように述べている。

教育は、教師と児童生徒との人格的な触れ合いを通じて行われるものであり、適切な指導計画や学習環境の設定、丁寧な見取りと支援といった、学びの専門職としての教師の役割は、生成 AI が社会インフラの一部となる時代において、より重要なものになる。

学校現場における生成 AI の効果的な利活用を実現するためにも、生成 AI の仕組みや特徴を理解するなど、教師には一定の AI リテラシーを身に付けることが求められる。例えば、情報技術を日常の校務等に活用しつつ、教師自身が新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点、賢い付き合い方を知っておくことが、教育活動で適切に利活用する素地を作ることにも繋がる。あわせて、このような教師の学びをサポートできるよう、環境の整備や研修機会等の提供も求められる。なお、教職課程においても、生成 AI の普及といった社会の変化や学習環境の進化に伴う新たな学びの実装の進展等も踏まえ、本ガイドラインを参考資料として活用いただくことが期待される。

初等中等教育段階における 生成 AI の利活用に関するガイドライン (2024) pp. 7-8

保護者の役割については、触れていない。保護者は「学びの専門職」ではないが、「AI リテラシ」を身に付けることにより、本来、保護者が向き合うべき子供の「なぜ？」や「どうしたらいいの？」の役割を担う可能性があるのではないかと考える。

8 指標実現に向けた 2026 年度の取り組み

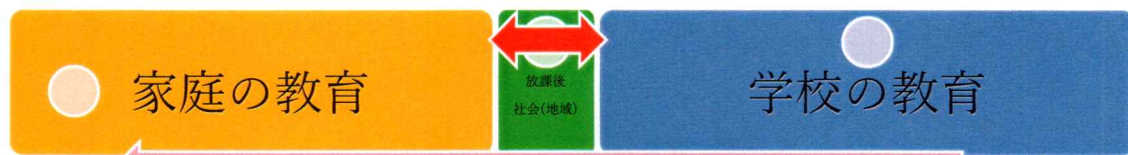
2026 年度も 2025 年度を継承しながら、日常生活における学習意識を支える取組を

6 点について考え、子供の実態に合わせて実践していく。

- (1) 逆転の発想で地域の教育力と家庭の教育力の復活
- (2) 大人の得意とすることが「子供のよさ」の発揮と「やる気」につながる
- (3) 開発プログラムの導入による「自分のよさ」への気付き
- (4) 読書のすすめと伝記などの「読み聞かせ」を通して憧れる人をつくる
- (5) 「自学（宿題）」の学習習慣をつくる
- (6) 生成 AI 親子教室を通じた保護者への啓発

8.1 逆転の発想で地域と家庭の教育の力をつける

★家庭教育を補完し、学校教育の土台をつくる放課後支援
従来型・・・学校で学んだことを家庭につなぐ放課後学習支援。



逆転の発想・・・家庭を含めた社会での学習・体験を放課後で積み重ね学校教育につなげるための、一部分としての放課後学習支援。



- ・家庭教育を放課後で微力ながら支援する。
- 「放課後で体験を重ね」家庭教育を補完する学習支援の取組
- 子どもたちが保護者や先生以外の「斜めの関係のアドバイザー＋生成 AI」と継続的に関わることにより
 - ① 社会性を養い、コミュニケーション能力を育む体験
 - ② 達成感や自己有用感を味わうことにより、将来の夢や希望を育む体験
 - ③ 「わかる」「楽しい」を感じるにより自己肯定感を育み、学習意欲や習慣を体験
- ※「斜めの関係」のアドバイザー＋生成 AI も家庭や地域と共に体験学習を補う
- ・一族郎党(家庭を含めた地域社会全体)の発想による支援
- 常時のアドバイザー＋「開発プログラム」＋「生成 AI リテラシー」による支援
- ・宿題（自学）のルーティン化

8.2 大人の得意とすることが「子供のよさ」の発揮と「やる気」につながる

2025年度は、日常生活における学習意識を支える取組をアドバイザーの得意を前面に出しながら、子供の実態に合わせて実践してきた。2026年度もアドバイザーが特支とすることをより一層色濃くしていこうと考える。

8.2.1 スマイル教室(瀬谷第二小)

指標については、楽しい、来てよかったと言っているので実現できている。開発プログラムはよかった。多様な関わりがあると楽しくなる。例年に続き2年生・3年生(低中学年)の参加児童。成果と進展がある程度みられたと感じている。子供の参加が多い「開発プログラム活動」を多く取り入れての計画実施であった。スマイル教室・参加児童の他にキッズクラブ児童の参加を認めて盛会であった。放課後学習支援活動には、ゲーム等を取り入れた学習を好み、自分で課題を持って積極的に取り組む姿勢にするには課題が残る。

自学(宿題や自分で決めたやりたい学習)については、活動優先ではある家庭での宿題等の勉強が出来ない子どもや学習意欲に欠け学力低下につながる子どもたちも多くいる。自学以外で準備した教材を多く準備して興味関心を味わえるような教材も多く試みた。しかし、子ども達は、全員やグループでの活動(ゲーム化・集団体験学習等)の興味関心度が高く意欲的に取り組んでいるのが現実であり、自ら進んで課題を持ち自学に取り組める児童は少ない。

学習アドバイザーが、如何に子ども一人ひとりに寄り添った学習支援がどのように関われば学習意欲を育てられるかが課題であり問題点でもある。

8.2.2 わくわく教室(二つ橋小)

SDGs講座も家庭で会話しているようで、よかったようである。シール集めには関心がある。大学生のスタッフとキッズスタッフが協力的である。子供のルーチンはできているが、もう少し自分から取り組んでほしい。多様な子どもが来ている対応を考えていかなければならない。「チャレンジのあしあと」での感想は、満足しているようである。コグトレや脳トレは今年の2年生にとってやや難しかったようなので、児童の実態に合った工夫が必要と考える。プログラミングやSDGs、化石ハンター等の講座は子どものみならず保護者の感想もよかったので、来年度も計画的に実施したい。

おもしろ実験ではペットボトル飛行物体づくりや段ボール空気砲等好評だった。また、ゴムボール遊びも普段遊ぶ機会がないせいか予想以上に楽しんでいた。体育館の確保など課題はあるが年間計画を立てて何回か実施したい。保護者は宿題や学習の支援を望んでいるので、児童各自の学習状況に合った支援を考えたい。(定期的に各自の進み具合の把握、土曜日や長期休業の活用等)「チャレンジのあしあと」はいろいろなシールを活用したためか大変好評だったので、これからも児童各自の励みになるような工夫を続けていきたい。また、各家庭との連携も考えていきたい。(キッズ通信の利用、ファイルの持ち帰り、保護者の欄等)

8.2.3 たけのこ教室(上瀬谷小)

スタッフが協力的でアンケートがしっかりと集まってくる。うろうろしてすぐに帰

る子どもも居るので、申込を取るときに1年通して参加するように記載していきたい。今年も時期的なものを除いて、イベント的な取り組みは、暑い夏休みに集中させた。夏休みの課題のヒントにでもなればとの思いと、外の木陰で楽しめるシャボン玉や水鉄砲、水ロケット、色水実験等を行った。これには9月から参加予定の1年生の事前体験も兼ね、キッズに参加の全学年をOKとした。楽しい活動で暑い夏を乗り切りたいと考えた。しかし、これには夏休みになるといつも参加していた子たちで未経験の子がでてしまう。仕方なく休み明け以降に同じ体験を複数回実施したことがあった。それでも、喜んで参加した。限られた回数と時間の中で、それぞれの要望に応えながら実施していくには、厳しい部分もある。学校でやること、キッズでやること、家庭や地域でやること、そしてたけのこ教室の放課後学習支援でやることのすみわけが大事になってくる。

知りたい、分きたい、学びたい子の場所にしたいと思っている。スタッフの方々が参加の声かけや出席管理に尽力くださっているのも、期待に応えられるようにとも思っている。対象学年は1年から3年までにしているが、4年が自学できたり、紙芝居を読んでくれたりと、低学年に関わろうとする姿も見られる。学校が進める縦のつながりの姿であると思う。

8. 2. 4 かがやけ！ダイヤモンド教室(大門小)

子供の中に百人一首に目覚めた子どもが居る。キッズに来ると図書室で百人一首を一生懸命読んでいる6年生がいる。百人一首の時間まで百人一首の勉強していたいのですか？課題をもっているのだから、どうぞ！「よろしくおねがいます」をいうのが気持ちいい。子どもの素晴らしさ！折り紙を教えてくれるのもよい。一人一人の学習をきちんと見られているかが十分ではない。「ダイスタ」の自学についても取り組んでいる。保護者は学力に目が向いているが、百人一首のすごい集中力が見られるので、学力も伸びているということを証明できたらいい。時間に宿題もプリントも百人一首もとなると時間が足りない。技術的に強い児童が一人いて、大人が対戦するしかないと悩んでいたところライバルが現れた。子供の競争心はすごい。別の子供はダイヤモンド教室での大会でブロック優勝を果たし他の学習にも自信を持ったようである。

工作も必要だと思い、時々折り紙工作を取り入れている、タブレットの台数に限りがあり全員が仕えない事もあるので選択させている。多くの子どもたちが喜んで制作に励んでいる。スタッフの中にうまい人が居るので担当してもらっている。化石教室、ドローン教室は人数に制限があるので全員が体験できたわけではない。特にドローン教室は体育館での活動なので土曜日開催となると参加が限られる。多くの児童に体験させたい。

8. 2. 5 ぐんぐん教室(相沢小)

やんちゃな男の子が成長している。育ってきているのでやり甲斐があり、楽しい。11月からホワイトボードを使えなくなり、問題を出し合うことがなくなった。人の話を聴くようになった。文字が読めない子どもは、何をやってもできない。聴き取ることできない子どもは指導が難しい。

どのような子供を育てるかという共有ビジョンや、子供たちが取り組む具体的な約

束事について、スタッフさんや我々支援委員が同じことがいえるようにしていきたい。個々の子供たちは考え方が違っていいが、共同生活していくときの約束事はとても大切である。

ほぼ全員の子供が楽しかったと回答している。申込みの無かった子供（特に1年生）の参加も認めた。学習よりも楽しい話に花が咲くことが多かった。理究作成のドリルを6ページやることを決まり事として行った。だいぶ九九の計算に自信がついた子供が増えた。あとは自学ノートや宿題プリントに取り組んでいた。課題が終わった子たちで問題を出し合ったり、パズルを解いたりして過ごした。

保護者やスタッフは友達と楽しく過ごしていることに安心を感じている。宿題をやるという意識がしっかり持てたようだと感想も聞いた。スタッフとは毎回終了時に取り組みの要旨を共有できるよう報告した。

*友達が話しているときは、その話が終わってから話そう。*他人のモノや身体に勝手に触れないという約束事がキッズで徹底できるといいと感じる。

作業内容は単純だが、毎回同様のルーティンが安心感を生めたように評価している。机などが不足しているが、落ち着いた場所での活動ができればさらに良い結果も期待できると思う。みんなが取り組める課題探し支援員泣かせである。

課題という語句の意味を伝えるのに苦労したが、何かやろうとしたときや、困りごとがあったときに、『自分で目標を立てたり、どう解決しようと考えてから取り組みますか』と説明。課題など立てずにやってしまう子どもが多いと思ったが、いろいろ考えて取り組むという回答であった。ぐんぐん教室の中でも、みんなで考えたり、みんなで実践させるよう意識して指導・支援してきた。しかしながら相手を傷つけるような言動がまだまだ散見する。

8. 2. 6 きらきら教室(瀬谷小)

提出するとシールがもらえると喜ぶ。自学をキッズの時間に終えることが目標。自宅に帰ったら家庭の人と遊ぶがよい。開発プログラムは受け付けない。音読も5~6人まとめてやっている。図書室や図工室も借りられている。静かに取り組んでいる。

きらきら教室に参加して自学により集中して取り組めるようになった。漢字練習も集中して丁寧に書けるようになった。友達と一緒に勉強できることが楽しく、達成後のシール集めが楽しいようである。親以外に褒められる経験は自己肯定感を高めることにつながっている。音読のサインや自学ノートに書いてもらった花丸がうれしいようである。水曜日はきらきら教室を楽しみにキッズに来る子供もいる。きらきら教室で宿題が終わるので夕方は遊びに夢中になれている様子が見られる。プログラムも好評で子どもも大人も楽しめている。

8. 2. 7 さくらキッズ教室(瀬谷さくら小)

特別プログラムを毎月実施した。図書室の畳のコーナーで読み聞かせを実施したら、寝てしまった子供もいる。とても落ち着いて聞くことができた。2月にはGWTを実施し、リーダー性の発揮など生き生きしてよかった。宿題はもってくるようになった。今年度も何とか無事に学習支援を進めることができ、協力してくださったみなさ

んに感謝している。

今年の子供たちのアンケートを見ると、うれしいことに、学習時間が増えたという子どもが多くなっている。学習支援に来る子どもたちの様子を見ると、以前より宿題を済ませてきたり、きちんと持って来たりする子どもが増え、学習に向かう姿勢が改善してきたのを感じる。全体的には今のような進め方でいいのではないかと思う。

ただ、これだけは何とかならないかと感じることがある。子どもたちの周囲の大人に対する言葉遣いである。平気で失礼な言葉を浴びせかける子どもがいるが、それをしっかり注意することなく済ませてしまうことは、その子どもに対してもまわりの子どもに対しても大切な学習の機会を失することになる。なぜそのような行動になるのか、課題としてしっかりとらえ、継続して支援していく必要があると思う。子どもの問題となる行動は、周囲にいる大人の問題であることを自覚して接していきたいと考える。

8. 2. 8 さわやか教室(三ツ境小)

人数が多くなか、アンケートの回収率もよかった。学習習慣がついた。プログラミングもよかった。ギターで歌うのも肯定的に受け止めていた。今日は歌の日。私の個性でよかった。

主に、宿題が終わると算数ドリルと国語ドリル、パズルなどに取り組みました。また、タブレットで学習関係アプリや車型ロボットやドローンを用いたプログラミングにも挑戦したりしました。今年度はギターに合わせて「みんなのうた」を歌うこともしました。

課題が明確なら進んで解決する姿が見られます。ただ自分で課題を見つけたり調べたりまとめたりする方法が不明瞭だと困る様子を見せたりしている。

8. 2. 9 いきいき教室(原小)

1時間のいきいき教室の中で前半の30分強の時間を主に算数の学習の時間にあて7分を学習のあしあと記入とシール配布に、20分を紙芝居、折り紙、工作等に配分している。学習の時間は、家庭学習(宿題)、ドリル、プリントから本人の自主的な選択に任せている。家庭学習を終えてからドリル学習に進むことがルーティンになっているようで自分から安心して取り組めるようである。子供のアンケート結果を見ても宿題・ドリル・プリント学習の評価が8割近くと高く、6割の子が学校以外の学習時間が増えたと回答している。保護者のアンケートでも学校以外の学習時間が少し増えた、学習習慣が少し身についたとの回答があった。放課後学習支援で身についた習慣が学習習慣につながってきているといえるのではないかと考える。

地区センターから紙芝居を借りて実施した、また区民活動センターから瀬谷区の民話と昔話を借りることができたので何話か読んだ。何人かの子どもは楽しみに視聴している姿が印象に残った。夏休みや冬休みには工作を集中して実施したがアンケートを見ても人気が高かった。

今年度昨年度に引き続き自分の学習を終えた上の学年の子を主に1年生への小さな先生(小老師)として指名した。小さな先生となった2年生、3年生はとても意欲的に

1年生への支援やまる付けをして充実した時を過ごしたようである。日頃の学習支援の場でも下の学年に対しての積極的なかわりを感じることができ、またスタッフや保護者のアンケートでもそのことに触れられている。自尊感情・自己有用感を持つことができていると考える。

今年度からの取り組みとして、ドリルのやり終えたページは丸を付け100点と記入してその日のうちに持ち帰らせるようにした。「おうちの人に見せて頑張ったよと言って褒めてもらいなさい。」と言い添えている。保護者アンケートにもそのことに触れ嬉しそうに保護者と会話している様子が書かれていたが、子どもが自慢できる、保護者に学習支援の取り組みを理解してもらえ、褒めてもらえる、子供が自信を持てる、とよい結果が表れていると考える。

8. 2. 10 かがやき計算スキルアップ(南瀬谷小)

参加した児童の91%が活動を「楽しかった」と回答しており、算数の楽しさを知りきっかけとなっている。自分のペース腕プリント学習は一枚の量を少なくすることにより学習意欲につながり、一枚終わるごとに合格カードにシールを貼ることで達成感を持つことができました。

丸付けボランティアが丸をつけることで、コミュニケーションを図ると共に個々のつまずきの発見につながりました。

お楽しみ学習の実施で、算数の楽しさを知ったようである。副校長先生のミニ授業、図形を使った工作(かざぐるま・変身カード・紙飛行機)、算数カルタ大会などを実施した。

保護者の約4割強が学習習慣の定着を実感しており、約3割が学校以外での学習時間が増えたと回答している。子供が支援教室で宿題を終わらせてくるため、家で「宿題をしなさい」と怒らなくて済むという安心感が大きなメリットとして挙げられている。ボランティアや先生が「優しく教えてくれる」ことや、音読ができるようになるなどの具体的な進歩に対し、肯定的な評価が寄せられている。

最初は気が乗らない様子を見せていても、最終的には「一生懸命取り組む姿」を見せる子供たちに対し、ボランティア側も「かわいい」「やりがいがある」といった肯定的な感情を抱いている。学習だけでなく、帰る前に机や椅子を整えさせるといった基本的な生活習慣の指導においても、一定の成果を実感している。「教えすぎない(子供に考えさせる)」という方針と、子供からの質問にどう答えるかという葛藤の中で、より良い「教育的関わり」を模索している。

8.3 開発プログラムの導入による「自分のよさ」への気付き

2025 年度実施プログラムをさらに発展させ、子供のやりたい！を引き出す

プログラミング教室
ワクワク図工教室
”キッズ防災教室
（親子防災教室・スタッフ研修）”
子どもかけっこ教室校庭編
子どもからだづくり体育館編
親子からだづくり教室
SDGs ミニ講座
Let's play 百人一首！
言葉遊びミニ講座
尺八を鳴らしてみよう
香りと自分 ～香楽～
読み聞かせの時間
横浜すばいす食育の時間
親子で「はし名人」にチャレンジ
親子で「日本茶を味わおう」
親子で「だしについて知ろう」
化石ハンターになろう

8.4 伝記などの「読み聞かせ」を通して憧れる人をつくる

2025 年度に引き続き実施

「周りの人、学習意識に関する調査」から、「モデル（尊敬する人）」がいない子供が多いことが、2 年連続で明らかになった。

周りの人が多い子供ほど学習意識が高く、モデルとなる尊敬する人と出会っている確率が高い。多くの人との出会いや多世代交流、地域行事等に参加することが大切である。

また、共働き世帯が増加するなど、社会全体の流れが、未来を担う子供を置き去りにしている状況がある。放課後での周りの人のかかわりの中に伝記などの「読み聞かせ」を導入することにより、本の中での出会いも多くしてはどうかと考えた。読み聞かせボランティアなどに声をかけ、本に親しむ機会を増やしたい。

8. 5「自学(宿題)」の学習習慣をつくる

多くの放課後学習支援の場で、子供が進んで「自学」に取り組んでいる姿がある。これまで、当たり前のように受け止めてきたが、今年度は、学校より情報提供いただき、どのようにすすめているのかがわかる資料を頂いた。

じがくノート 【 1・2ねんせいよう 】

< やくそく >

- ① 毎日^{まいにちがくしゅう}学習^{とくべつ}をする。^{じじょう}(特別な事情^{とき}がある時はのぞく)
- ② ノートの上に、今日の日付^{うえ きょう ひづけ}(○月○日)とはじめたじこく^{○じ○ふん}(○じ○ふん～)をか
く。
おわたたら、おわたたじこく^{○じ○ふん}(○じ○ふん)もかく。
- ③ 毎日^{まいにち}1ページかく。

はじめとおわりのじかん → ○じ ○ふん から ○じ ○ふん
ひづけ → ○が ○にち ○ようび

四	よ	し	二	に	ね	大	お
つ		や	ひ	ん	き		
五	い	。	き	せ	な		
つ	四	し	の	い	木		
六	む	か	か	の	に		
つ		く	に	小	ち	の	
				さ	い	ぼ	
		五	三	な		る	
		ほ	り	手			
		ん	ん			一	

かんじれんしゅう
①
なまえ
かんだのよみかたをわすれず
のこう
い

にかたなかんじ

自学ノート 【 中・高学年用 】

< やくそく >

- ① 毎日^{まいにちがくしゅう}学習をする。(特別な事情^{とくべつ じじょう}がある時^{とき}はのぞく)
- ② ノートの上に、今日の日付^{ひづけ} (○月○日) と開始時刻^{かいしじこく} (○時○分～) を書く。
終わったら終了時刻^{しゅうりょうじこく} (○時○分) も書く。
- ③ ノートは左開きからスタートし、必ず^{かなら}見開きで使う。
- ④ ノートは見開き2ページ分にまとめる。
右のページは漢字、左のページは自分メニューを学習する。
- ⑤ 自分メニューのページは、めあてと今日^{きょう}のひとことを必ず^{かなら}書く。

アドバイザーが「自学」についての知識がなかったため、情報提供していただいた。

今後、家庭や学校と連携しながら、学習習慣の確立を目指していきたい。

放課後学習支援教室に来る子供たちは、まず、宿題を片付けたいという気持ちを持っている。保護者も放課後学習支援教室で宿題をやってくれれば助かると思っている。

自ら課題を見つけ…とはいえないが、まずは宿題に取り組むという姿勢は、間違いではない。「課題を解決して帰る」のは、理想的であるともいえる。

その上で、この自学を支え、学習習慣を作っていくのも重要な視点として入れることとした。

1

3	8	-	4	3	5	2	9	1
X	←	3	X	2	X	8	7	3
9	5	4	8	7	0	8	7	3
1	6	0	4	6	6	1	4	5
X	6	X	2	X	5			
9	6	0	9	5	2	7	2	5

2

9	÷	4	=	4	あ	ま	り
2	÷	5	=	4	あ	ま	り
5	÷	7	=	7	あ	ま	り
6	÷	9	=	7	あ	ま	り
5	÷	8	=	7	あ	ま	り
3	÷	6	=	6	あ	ま	り
8	÷	9	=	8	あ	ま	り
1	÷	2	=	9	あ	ま	り
4	÷	7	=	6	あ	ま	り
2	÷	3	=	9	あ	ま	り

3

4

4つのスペースに分けている


受打自他湯明薬神
 け者分人湯か箱様
 ん打自他湯り薬神
 受者身人湯明箱様
 け打自他湯か薬神
 ん者分人湯り薬神
 受打自他湯明薬神
 け者分人湯か箱様
 ん者身人り箱様

1月22日(木) 6:20~7:04

くめあて? お礼に書いてある人物についてくおしく調べよう。


千~一万円

①北里 栄三郎 (十円札)




破傷風菌の菌を一つだけ取りだし調べることによって成功し治療方法を見つけた。福沢諭吉とも知り合い。

②津田 梅子 (五千円札)



女子教育の先駆者であり、日本初の女子留学生。津田塾大学を今でも築かれている。

③荒沢 栄一 (一万円札)



日本初の銀行を500以上つくり、日本の経済発展の土台をつくった。そして人々の仕事をさせた。

く今日の一言
 ひまたから学年花隊に水あげたけどおぼろげにちねれになりました。
 ほんの日本のために活躍はありたい!

1月22日(木) 外丸 6:01~6:15

確告直表留限似造
 実げ接現学るるる
 確る直表生限似造
 実告接現留るるる
 確げ直表学限似造
 実る接現生るるる
 確告直表留限似造
 実げ接現学るるる
 確る直表生限似造
 実告接現留るるる
 確げ直表学限似造

2018年1月22日(木) 6:01~6:15

8.6 生成AI親子教室を通じた保護

10年前になるだろうか、プログラミング教育が学習指導要領の内容に入れられることが叫ばれる中、本法人は、アクセント株式会社と情報科学専門学校と提携して、小学校でのプログラミング教育支援事業を立ち上げ、実施してきた。

その、アクセント株式会社から「小学生から学べる未来のチカラ体験講座」を紹介していただいた。

<講座の時代背景>

- 昨今注目を浴びている生成 AI は今後の社会において、不可欠なツールになっていくと考えます
- 小学生であっても既に利用している方が多いのが現状です
- 一方で、保護者や教員の皆さまが懸念される通り、学校の宿題・コンクール作品等を生成 AI に作成してもらいそのまま提出するといった、安易な利用を行ってしまうリスクも大いに想定されます
- いうまでもなく、生成 AI は、これまで以上に人の能力を拓ける一方で、その使い方や倫理的課題への理解がなければ、利用者にとって大きな弊害や危険をもたらす可能性があります

<講座の目的>

- ◆生成 AI を人の能力を拓ける『補助』ツールとして適切に使うためのリテラシーを学んでいただきます
 - ・生成 AI の仕組みを理解します
 - ・生成 AI に入力する情報や生成される回答に対して払うべき注意点を理解します
 - ・生成 AI は“単に自分を楽しにするもの”ではなく“自らの思考力や問題解決能力を引き上げてくれるツール”であることを理解します
- ◆講座受講後も生成 AI を適切な手段・方法として活用いただくことを目指します

STEAM 人材育成チーム 小学生向け生成 AI 講座 授業概要紹介資料より引用

以上の目的は、学校教育の中での教師に提供するプログラムとして考案された。

本法人は、保護者向け「生成 AI 親子教室」として、保護者の AI リテラシーの向上に貢献できたらと考え、実施することとした。

アクセントと協議しながら、教師向けスライドの内容を親子向けスライドの内容へと検討し、保護者が子供と共に生成 AI に学び方を学ぶ使い方ができることを願って、実践を積み重ねていきたい。

8.6 生成AI親子教室を通して保護者と子供が学び方を学ぶ

10年前になるだろうか、プログラミング教育が学習指導要領の内容に入れられることが叫ばれる中、本法人は、アクセント株式会社と情報科学専門学校と提携して、小学校でのプログラミング教育支援事業を立ち上げ、実施してきた。

その、アクセント株式会社から「小学生から学べる未来のチカラ体験講座」を紹介していただいた。

<講座の時代背景>

- 昨今注目を浴びている生成AIは今後の社会において、不可欠なツールになっていくと考えます
- 小学生であっても既に利用している方が多いのが現状です
- 一方で、保護者や教員の皆さまが懸念される通り、学校の宿題・コンクール作品等を生成AIに作成してもらいそのまま提出するといった、安易な利用を行ってしまうリスクも大いに想定されます
- いうまでもなく、生成AIは、これまで以上に人の能力を拓ける一方で、その使い方や倫理的課題への理解がなければ、利用者にとって大きな弊害や危険をもたらす可能性があります

<講座の目的>

- ◆生成AIを人の能力を拓ける『補助』ツールとして適切に使うためのリテラシーを学んでいただきます
 - ・生成AIの仕組みを理解します
 - ・生成AIに入力する情報や生成される回答に対して払うべき注意点を理解します
 - ・生成AIは“単に自分を楽にするもの”ではなく“自らの思考力や問題解決能力を引き上げてくれるツール”であることを理解します
- ◆講座受講後も生成AIを適切な手段・方法として活用いただくことを目指します

STEAM人材育成チーム 小学生向け生成AI講座 授業概要紹介資料より引用

以上の目的は、学校教育の中での教師に提供するプログラムとして考案された。

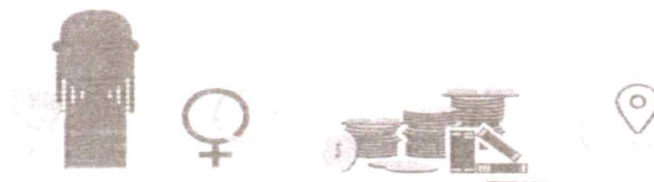
本法人は、保護者向け「生成AI親子教室」として、保護者のAIリテラシーの向上に貢献できたらと考え、実施することとした。

アクセントと協議しながら、教師向けスライドの内容を親子向けスライドの内容へと検討し、保護者が子供と共に生成AIに学び方を学ぶ使い方ができることを願って、実践を積み重ねていきたい。

9 OECD 調査結果と方向性が同じ

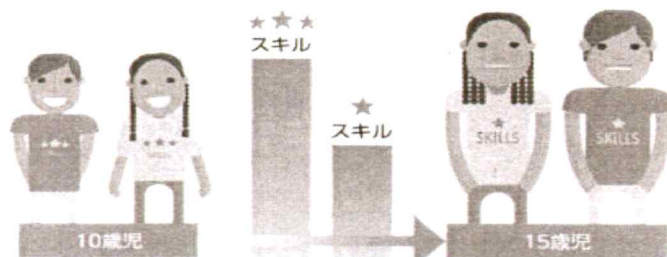
本報告書では、「日常生活における学習意識」としているのは、OECD が主張する「社会情動的スキル」に通ずるものである。同じ傾向が示唆されているため参考に示す。

データからわかること



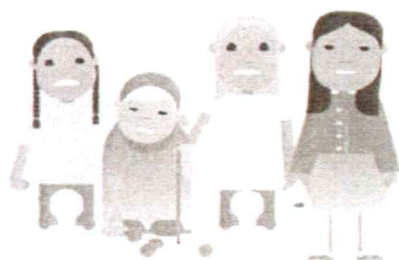
生徒の社会情動的スキルについては、年齢、性別、社会経済的背景、移民としての背景が重要である。

若者の社会情動的スキルは、青年期に入ると低下する。



15歳児は、性別や社会経済的背景に関係なく、10歳児よりもスキルが低く、この低下幅は、大半のスキルで女子のほうが男子よりも大きい。

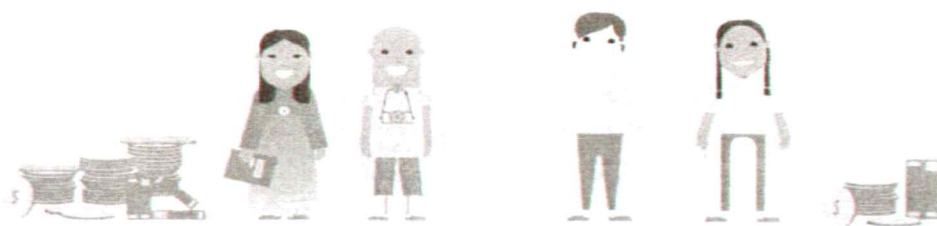
女子は、男子よりも、責任感や共感、他者との協同のスキルが高い。



男子は、女子よりも、感情抑制や社交性、活発さのスキルが高い。



平均では、すべての調査参加都市で、



社会経済的に恵まれた生徒は、社会経済的に恵まれていない生徒よりも社会情動的スキルが高い。

引用文献

保科学世（2024）「対立ではなく いかにか AI と協働するか」アクセンチュア保科学世
〔監修〕『生成 AI 協働・共生の時代』（株）日経 BP 日本経済新聞出版 pp. 018-019.

経済協力開発機構（OECD）（2022）「社会情動的スキルの国際比較 教科の学びを超える力 <第 1 回 OECD 社会情動的スキル調査（SSES）報告書>」（株）明石書店 p 60

文部科学省（2024）初等中等教育段階における 生成 AI の利活用に関するガイドライ
ン 文部科学省 初等中等教育局 令和 6 年 12 月 26 日 Ver. 2.0

https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt_shuukyo02-000030823_001.pdf

2026 年 3 月 11 日閲覧

STEAM 人材育成チーム 小学生向け生成 AI 講座 授業概要紹介資料